

4-2 行動科学

研究・教育活動の概要と特色

1983年に設置された行動科学研究室は、①社会学をはじめ、心理学・言語学・人類学・政治学・経済学など多くの専門分野と対象領域を共有すること、②人間行動や社会現象の解明に科学的方法、とりわけ数理的・計量的方法を適用すること、の2点を掲げ研究・教育を実践してきた。これまでに輩出してきた卒業・修了生は200余名にのぼる。過去5年に関しては、21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点」（2003年度～2007年度）、グローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」（2008年度～）、「社会階層と社会移動に関する全国調査」（2005年度）、「家庭廃棄物（ごみ）に対する住民の意識と行動に関する調査」（2005年度～2006年度）、「教育と社会に対する高校生の意識—第6次調査」（2007年度）、など本研究室が推進してきた行動科学的手法をより広く適用、発信する機会に恵まれた。

上記の調査研究プロジェクト等を通じて、教員はじめ、大学院生や学生は、社会階層や環境問題、教育など、さまざまな社会事象に数理・計量的アプローチを試みている。数理・計量的研究の専門家を揃えた講座の研究・教育体制は全国的にも高い評価を得ており、本研究室の創設者である西田春彦教授の描いた「東北に数理・計量社会学のメッカを作る」という夢が現実のものとなりつつある。

なお、2008年3月をもって海野道郎が定年退職した（現在は東北大学教養教育院総長特命教授）が、2008年4月に浜田宏が准教授として就任した。また2009年3月をもって原 純輔が定年退職した（現在は放送大学宮城学習センター所長）。

I 組織

1 教員数（2009年9月末現在）

教授：2

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：佐藤嘉倫、木村邦博

准教授：浜田 宏

助教：本郷正武

2 在学生数（2009年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
51	1	7	9	0

3 修了生・卒業生数（2005～2009年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
05	13	4	0
06	12	6	0
07	16	3	0
08	20	6	1
09	0	1	0
計	61	20	1

* 2009年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2005～2009年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
05	0	0	0
06	1	0	1
07	0	0	0
08	2	1	3
09	0	0	0
計	3	1	4

*2009年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

三輪哲、2006年度、『後発産業化と階層社会のゆくえ—「社会の開放性」に関する計量社会学的研究』

審査委員：教授・原純輔（主査）、教授・海野道郎、教授・佐藤嘉倫、教授・鈴木淳子、助教授・木村邦博

渡邊裕子、2008年度、『社会福祉における介護時間の研究へのタイムスタディ調査の応用』（論文博士）

審査委員：教授・原純輔（主査）、教授・吉原直樹、教授・佐藤嘉倫、准教授・下夷美幸

佐藤智子、2008年度、『地方自治体の姉妹都市交流に関する実証的研究—継続的交流を可能ならしめる要因』

審査委員：教授・佐藤嘉倫（主査）、教授・原純輔、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏

井出知之、2008年度、『社会階層と政党支持意識の質的変動—「支持政党なし」意識を中心に』

審査委員：教授・原純輔（主査）、教授・佐藤嘉倫、教授・木村邦博、教授・長谷川公一、准教授・浜田宏

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
05	1	0	1	1	3
06	2	1	0	0	3
07	1	1	0	9	11
08	5	5	0	4	14
09	2	0	0	0	2
計	11	7	1	14	33

* 2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
05	2	15	0	1	18
06	2	10	0	1	13
07	0	27	0	2	29
08	5	12	1	6	24
09	5	10	1	3	19
計	14	74	2	13	103

* 2009年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

[朝岡誠]

朝岡誠、「誰が「解き放たれる」のか?:エージェント・ベースト・モデルによる信頼生成メカニズムの検討」 籠谷和弘(編)『市民活動の活性化支援の調査研究:秩序問題的アプローチ』平成17年度～平成19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、2008年

[稲垣佑典] (2007.4～)

* 稲垣佑典、「都市部と村落部における信頼生成過程の検討」『社会心理学研究』、2009年

[恵羅さとみ] (2009.4～)

恵羅さとみ、「建設業における移民日雇い労働者の拡大と労働者の保護・

組織化—産業構造の変容とワーカーセンターの機能に着目して」小井土彰宏（代表研究者）『転換期のアメリカ合衆国移民政策の社会学的分析—9.11 事件以降の入管政策の強化と「非合法」移民への対応』（平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金 基盤研究 B2（海外）研究成果報告書）、第 5 章: pp.137-193、2009 年

[金澤悠介]

* Yusuke Kanazawa, “The Promotion and Evolution of Cooperation through Projection: Implications for Social Dilemmas and Trust,” *Journal of Mathematical Sociology*, 31 (2): 187-204, 2007

金澤悠介、「ネットワークと信頼・社会参加についての 3 つの仮説—地域比較による予備的分析」 籠谷和弘（編）『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書: 133-151、2008 年

金澤悠介、「ネットワークと信頼・社会参加についての 3 つの仮説—個人データによる検討」 籠谷和弘（編）『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書: 153-170、2008 年

金澤悠介、「社会関係資本と一般的信頼の生成—二つの仮説の経験的検証と新たな仮説の提示」『社会学研究』 84: 45-68、2008 年

金澤悠介、「信頼と社会参加に関する地域比較—社会調査による検討」『東北文化研究室紀要』 49: 15-27、2008 年

[佐藤智子] (2007.4～2009.3)

* 佐藤智子・佐々木肇、「釜石市とディーニュ・レ・バン市との姉妹都市交流に関する一考察」『総合政策』9(2): 103-125、2008 年

* 佐藤智子、「地方自治体における姉妹都市交流の継続性の条件」『社会学研究』84 号、2008 年

[塩谷芳也] (2005.4～)

SHIOTANI Yoshiya, “Constructive Image of Occupational Stratification and Status Attainment Orientation.” *Annual Report, 2007. The 21st Century Center of Excellence Program, Tohoku University, Center for the Study of Social Stratification and Inequality*: 152-157, 2007

塩谷芳也、「ライフストーリーからみる自営業層への参入経路」『文化』

72(2): 42-61、2008 年

Shiotani, Yoshiya and Sato Yoshimichi. “Social Images and Status Orientation to Get Higher Social Status; Theoretical Explanation of Status Orientation in Terms of Perception of Occupational Status and Distributive Image of Social Stratification” *Annual Report, 2008*. Global Center of Excellence Program, Tohoku University, Center for the Study of Social Stratification and Inequality, pp.142-152, 2009

* 塩谷芳也、「職業の社会的地位の認知と地位志向」『社会学研究』85: 109-131、2009 年

[針原素子] (2005.4～)

針原素子・辻竜平、「ネットワークにおける情報伝播と自己卑下的自己呈示」佐藤嘉倫・平松闊編『ネットワーク・ダイナミックス』、勁草書房、2005 年

辻竜平・針原素子、「ネットワーク理論から見た野沢温泉の活性化：観光関係者へのインタビューをふまえて」籠谷和弘編『市民活動の活性化支援の調査研究：秩序問題的アプローチ』（平成 17～19 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書） p.125-134、2008 年

辻竜平・針原素子、「新潟県中越地震におけるパーソナル・ネットワークと一般的信頼の変化—震災前後のパネル調査を用いて」『社会学研究』84 号、2008 年

針原素子、「日本人の自己卑下的自己呈示に関するネットワークモデルの構築」東京大学大学院文学研究科博士論文、2008 年

[林雅秀] (2007.4～)

林雅秀、「森林所有者の手入れ実施に対する意向分析」林野庁編『森林吸収源目標達成に資する効率的・効果的な森林整備の手法に関する調査報告書』 pp.31-35、2008 年

林雅秀、「林家の意欲を向上させる取り組み事例」林野庁編『森林吸収源目標達成に資する効率的・効果的な森林整備の手法に関する調査報告書』 pp.36-57、2008 年

林雅秀、「グローバル化時代における林政研究の課題」『林業経済研究』54(2): 55-57、2008 年

* 西園朋広・田中邦宏・栗屋善雄・大石康彦・林雅秀・横田康裕・天野智将・

久保山裕史・八巻一成・古井戸宏通、「秋田地方のスギ人工林における林分材積成長量の経年推移」『日本森林学会誌』90: 232-240、2008年

[林雄亮] (2005.4～)

林雄亮、「『格差社会』における社会意識—2006年格差と不平等に関する仙台市民意識調査の概要」『東北文化研究室紀要』48: 1-14、2007年

* 林雄亮、「現代日本社会における格差意識」『社会学年報』36号、pp. 189-209、2007年

林雄亮、「現代日本社会の多元的階層システム」佐藤嘉倫編『2005年SSM調査シリーズ15 流動性と格差の階層論』pp.153-170、2008年

林雄亮、「日本における転職と賃金変化の時代的変遷」佐藤嘉倫編『2005年SSM調査シリーズ15 流動性と格差の階層論』pp.83-98、2008年

* 林雄亮、「労働市場の流動化と世代内移動の帰結—転職に伴う賃金変化構造の時代的変遷」『社会学年報』37: 59-69、2008年

* 林雄亮、「現代日本の多元的階層構造」『社会学研究』84: 199-221、2008年

[堀内史朗] (2004.4～2007.3)

* Shiro Horiuchi, “Affiliative relationships among male Japanese macaques (*Macaca fuscata yakui*) within and outside a troop on Yakushima Island,” *Primates* 46, 2005

[本郷正武] (2004.4～2007.3)

本郷正武、「ライフコースの重なりが結ぶセルフヘルプ・グループ像—会の継続の契機と『教えること』の伝承」、原純輔編『学術資源学の構想—平成15～17年度科学研究費補助金(萌芽)論文集』、2006年

* 本郷正武、「ライフコースの重なりが結ぶセルフヘルプ・グループ像—『障害児をもつ親の会』を事例として」『保健医療社会学論集』17(1): 25-37、2006年

本郷正武、「(書評)山田富秋編著、2005年、『ライフストーリーの社会学』」『社会学研究』80: 271-276、2006年

[余田翔平] (2008.4～)

余田翔平、「父不在高校生の生活と意識」木村邦博編『教育と社会に対する高校生の意識—第6次調査報告書』東北大学教育文化研究会、

(2) 口頭発表

[朝岡誠]

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己高揚・自己卑下的自己呈示のフォー
マライゼーションとネットワークモデルの検証」数理社会学会大会（広
島修道大学）、2007年9月15日

朝岡誠・塩谷芳也、「人種集団とアスピレーション—相互作用とアスピレ
ーションのエージェントベーストモデル」数理社会学会大会（広島修
道大学）、2007年9月15日

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己呈示戦略と近隣集団離脱戦略の共進
化—エージェント・ベースト・シミュレーションによる検討」日本社
会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月22日

朝岡誠・金澤悠介、「コミットメント関係と信頼生成のメカニズム」第45
回数理社会学会大会（成蹊大学）、2008年3月

Kanazawa, Yusuke and Makoto Asaoka, “When do high trusters leave their
commitment relations?: An exploration through an agent-based model.”
Forth US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology in Redondo
Beach, 1st June, 2008

朝岡誠、「信頼生成のメカニズム—いつ信頼が「解き放たれる」のか」（ポ
スターセッション）日本社会学会大会（東北大学）、2008年11月24
日

[井出知之]（2007.4～）

井出知之、「階層帰属意識と階層評価の基準」数理社会学会大会（芝浦工
業大学）、2008年8月31日

井出知之、「民主主義的警戒としての『支持政党なし』」日本選挙学会研
究会（同志社大学）、2009年5月17日

井出知之、「『支持政党なし』と日本の特殊性」東北社会学会大会（東北
学院大学）、2009年7月20日

[稲垣典祐]（2007.4～）

稲垣佑典・辻 竜平、「都市と村落における信頼生成プロセスの検討」日
本社会心理学会（早稲田大学）、2007年9月23日

稲垣佑典、「都市と村落における信頼生成プロセス」日本社会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月23日

Yusuke Inagaki, Trust and trust generating process in urban areas and rural areas. Fourth joint Japan-North America mathematical sociology conference. Redondo Beach, California, May 29-June 1, 2008

稲垣佑典、「地域比較による信頼生成過程の変化についての検討」日本社会心理学会第52回大会（かごしま県民交流センター）、2008年11月3日

Yusuke Inagaki, "Relationship Between Trust and Commitment: A Study of Trust Generating Processes in Japanese Urban and Rural Areas" The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, Korea 12th March 2009

Yusuke Inagaki, "Characteristics and Potential of Social Capital: Possible Use of Social Capital in Japanese Local Revitalization" Tohoku-Stanford Summer School 2009, Tohoku University, Japan 17th July 2009

[恵羅さとみ]（2009.4～）

Era, Satomi, "Mobility and Labor Movement: An Analysis on Traditional Trade Unions Facing New Agendas," The 9th conference of Asia-Pacific Sociological Association (APSA) at the Discovery Kartika Plaza Hotel, Bali, Indonesia, 14th June 2009

恵羅さとみ、「アメリカ労働運動とローカリティ・移動・世代経験」東北社会学会研究例会（東北大学）、2009年7月4日

[金澤悠介]

Kanazawa, Yusuke, "The promotion and evolution of cooperation through projection: Implications for trust and social dilemmas." Third US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology, July 2005

金澤悠介、「協力行動、心理メカニズム及び社会的環境の研究—Orbell and Dawes (1991)の問題点」第40回数理社会学会、2005年9月

金澤悠介、「一般的信頼と社会的知性—エージェント・ベースト・モデルによる検討」第41回数理社会学会、2006年3月4日

金澤悠介、「信頼と信頼性の関連について—コミットメント関係の関係から」数理社会学会大会（九州大学）、2007年3月3日

- 金澤悠介、「異質な他者との付き合いは個人の信頼を上昇させるのか？—社会関係資本と信頼の関係に関する一考察」東北社会学会大会（東北福祉大学）、2007年7月21日
- 針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己高揚・自己卑下的自己呈示のフォーマライゼーションとネットワークモデルの検証」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日
- 金澤悠介・針原素子・林雄亮・籠谷和弘・小林盾、「信頼と社会関係資本に関する地域比較—社会調査データによる検討」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日
- 針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己呈示戦略と近隣集団離脱戦略の共進化—エージェント・ベースト・シミュレーションによる検討」日本社会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月22日
- 朝岡誠・金澤悠介、「コミットメント関係と信頼生成のメカニズム」第45回数理社会学会（成蹊大学）、2008年3月
- 金澤悠介、「社会的ネットワークと信頼—3つの仮説の経験的検討」第45回数理社会学会（成蹊大学）、2008年3月
- Kanazawa, Yusuke, “Which form of social networks fosters people’s trust?: A test of two hypotheses on the relationship between social networks and trust.” International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Asia, 2008
- Kanazawa, Yusuke and Makoto Asaoka, “When do high trusters leave their commitment relations?: An exploration through an agent-based model.” Forth US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology in Redondo Beach, 1st June, 2008
- Kanazawa, Yusuke, “Why social networks breed people’s sense of trust?: An empirical test of three hypotheses.” 日本社会学会大会（東北大学）、2008年11月23日
- 倉元直樹・金澤悠介、「大学入学者選抜における調査書利用の考え方—『合否入替り』法を利用して」日本高等教育学会（長崎大学）、2009年5月23日
- 金澤悠介、「組織加入と信頼の生成—社会調査による検討」東北社会学会大会（東北学院大学）、2009年7月20日

金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子、「看護師は理系？文系？
—大学入試設計から考える看護師養成の問題」日本テスト学会（名古屋大
学）、2009年9月3日

倉元直樹・金澤悠介、「大学入試における『評価尺度の多元化』に則った
調査書利用法に関わる一考察」日本テスト学会（名古屋大学）、2009
年9月4日

[銀屋裕]（～2008.3）

銀屋裕、“A Trend of Rural Exodus and Social Stratification in Post-war Japan”
国際シンポジウム「移行期における都市化と社会階層—ベトナム・中
国・モンゴル・日本の事例から」（東北大学）、2006年1月15日

[工藤匠]（～2007.3）

海野道郎・篠木幹子・工藤匠、「社会的ジレンマは社会的ジレンマか」第
52回東北社会学会大会、2005年7月30日

[佐藤智子]（2006.4～）

佐藤智子、「地方自治体における姉妹都市交流に関する実証的研究—継続
的交流を可能ならしめる要因」日本国際政治学会（福岡国際会議場）、
2007年10月28日

[塩谷芳也]（2005.4～）

塩谷芳也、「職業の序列と認知的職業分類」第52回東北社会学会大会、2005
年7月30日

塩谷芳也、「職業的地位認知と階層の再生産」数理社会学会大会（九州大
学）、2007年3月3日

塩谷芳也、「職業威信研究の課題と展望」東北社会学会大会（東北福祉大
学）、2007年7月21日

朝岡誠・塩谷芳也、「人種集団とアスピレーション—相互作用とアスピレ
ーションのエージェントベーストモデル」数理社会学会大会（広島修
道大学）、2007年9月15日

SHIOTANI Yoshiya, “Perception of Occupational Status and Orientation of
Status Attainment”, International Symposium on Frontiers of Sociological
Inquires by Young Scholars in Asia (supported by The Center of the Study
of Social Stratification and Inequality, 21st Century COE Program, Tohoku
University; Yonsei BK Project, Yonsei University; Chung-Ang BK Project,

Chung-Ang University), in Oak Room Sendai Excel Hotel Tokyu, on January 26, 2008

塩谷芳也「職業威信構造の認知と達成的地位志向—達成的地位志向に影響を及ぼす新変数の発見」第45回 数理社会学会大会（成蹊大学）2008年3月17日

Shiotani, Yoshiya, “Perception of Occupational Status and Orientation of Status Attainment,” Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, in Redondo Beach, California, May 30, 2008

Shiotani, Yoshiya, “Cognition of Social Conditions and Status Attainment Orientation,” 81th Annual Meeting of The Japan Sociological Society (日本社会学会大会) , at Tohoku University, November 23, 2008

Shiotani, Yoshiya and SATO Yoshimichi, “Why Does Difference in Aspiration Exist among Individuals, Explanation in Terms of Social Images,” Inequalities and Disparities in East Asia: A Tohoku University & NUS Joint Forum of Sociology & Stratification Studies, at Seminar Room B, AS7 Level 1, FASS, NUS @ Kent Ride, February 19, 2009

Shiotani, Yoshiya and SATO Yoshimichi, “Social Image and Aspiration to Get Higher Social Status,” International Symposium on Social Justice, Social Stratification, and Intergroup Conflict (supported by The Center of the Study of Social Stratification and Inequality, Global COE Program, Tohoku University), at Sendai International Center on February 24, 2009

塩谷芳也・佐藤嘉倫、「職業威信研究の課題と展開可能性」第5回 社会的不平等の調査研究プロジェクト研究会（成蹊大学）、2009年2月28日

Shiotani, Yoshiya and SATO Yoshimichi, “Perception of Social Stratification and Status Orientation”. The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia (organized by The Center of the Study of Social Stratification and Inequality, Global COE Program, Tohoku University), at Yonsei University, Korea, March 13, 2009

Shiotani, Yoshiya, “Distributive Image of Social Stratification and Status Orientation,” The 9th Conference of the Asian Pacific Sociological Association, at Kartika Plaza Hotel, Kuta, Bali, Indonesia, on June 13,

2009

Shiotani, Yoshiya, "Perception of Social Stratification and Status Orientation,"
Tohoku and Stanford University Summer School 2009, at Tohoku
University, on July 13, 2009

[Chihaya da Silva, Guilherme Kenjy] (2009.4~)

Chihaya da Silva, Guilherme Kenjy, 「中国における職業的地位の測度—通
婚圏から見える職業の序列」東北社会学会大会(東北学院大学)、2009
年7月19日

Chihaya da Silva, Guilherme Kenjy, 「改革開放後中国における社会的地位
—職業集団の通婚圏の分析から」日本社会学会大会(立教大学)、2009
年10月11日

[針原素子] (2005.4~)

辻竜平・針原素子・添川朝香, 「震災からの復旧・復興における行政ネッ
トワークと住民ネットワークの利用—新潟県X市でのインタビュー調
査からの考察」日本ソフトウェア科学会ネットワークが創発する知
能研究会第1回ワークショップ、2005年10月

針原素子, 「謙虚な人は好かれるか—Jasso (1999) の公正指標による日本
人の対人関係の分析」数理社会学会第41回大会、2006年3月4日

辻竜平・針原素子, 「知人数の推定と補正」数理社会学会第41回大会、2006
年3月5日

針原素子, 「自己呈示者への印象に推測された呈示動機が及ぼす影響—「謙
遜」よりも好かれる「謙虚」」日本グループ・ダイナミックス学会大
会(武蔵野大学)、2006年5月

Tsuji, R., & Harihara, M., "Comparison of the Acquaintanceship Volumes in
Japan and The United States," Poster session presented at the 18th
Congress of International Association for Cross-Cultural Psychology, Isle
of Spetses, Greece, 2006, July

Motoko Harihara, & Tsuji, R., "The effect of social networks on modest
self-presentation among Japanese: Comparison of rural and urban area,"
Poster session presented at the 18th Congress of International Association
for Cross-Cultural Psychology, Isle of Spetses, Greece, 2006, July

辻竜平・針原素子・添川朝香, 「震災からの復旧・復興における社会ネッ

トワークの活用」日本社会心理学会大会（東北大学）、2006年9月
針原素子・辻竜平、「地位役割に関する自己卑下的自己呈示の動機について—村落の住民代表者調査より」日本社会心理学会大会（東北大学）、
2006年9月

針原素子、「階層帰属意識に対する交際他者の地位の影響—スノーボール・サンプリングによる検討」数理社会学会大会（明治学院大学）、
2006年9月

金井雅之・籠谷和弘・小林盾・武藤正義・針原素子・渡邊勉・秋吉美都・
辻竜平・高久聡司・三隅一人、「宿泊施設の経営環境と業績との関係
についての統計的分析—温泉地域の現状と取り組みについての学術調
査（1）」日本温泉地域学会大会（蔵王温泉）、2007年7月

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己高揚・自己卑下的自己呈示のフォー
マライゼーションとネットワークモデルの検証」数理社会学会大会（広
島修道大学）、2007年9月15日

金澤悠介・針原素子・林雄亮・籠谷和弘・小林盾、「信頼と社会関係資本
に関する地域比較—社会調査データによる検討」数理社会学会大会（広
島修道大学）、2007年9月15日

針原素子・朝岡誠・金澤悠介、「自己呈示戦略と近隣集団離脱戦略の共進
化—エージェント・ベースト・シミュレーションによる検討」日本社
会心理学会大会（早稲田大学）、2007年9月22日

辻竜平・針原素子、「震災にともなう一般的信頼とネットワークの変化—
新潟県中越地震におけるパネル調査より」日本社会心理学会大会（早
稲田大学）、2007年9月23日

Harihara, M. & Chang, S., "The effect of social networks on modest
self-presentation: Comparative study in Japan and Korea" Poster session
presented at the 19th Congress of International Association for
Cross-Cultural Psychology, (Abstract 470), Bremen, Germany, 2008, July
30

針原素子、「社会的ネットワーク構造が“集団主義的”特性に及ぼす影響」
日本社会心理学会第49回大会（鹿児島大学）、2008年11月2-3日

[林雅秀]（2007.4～）

林雅秀・天野智将、「ネットワークの視点から見た素材生産業者の行動」

- 第 118 回日本森林学会大会（九州大学）、2007 年 4 月 3 日
- 林雅秀・天野智将、「ネットワークが素材生産業者のパフォーマンスに与える影響」第 80 回日本社会学会大会（関東学院大学）、2007 年 11 月 17 日
- 天野智将・林雅秀・堀靖人、「大規模木材需要の発生と素材生産業の対応」2007 年林業経済学会秋季大会（島根大学）、2007 年 11 月 25 日
- 田中亘・山本伸幸・林雅秀、「林業経営統計調査からみた主業的林業経営の動向」日本森林学会関西支部大会（高知大学）、2008 年 10 月 17-18 日
- 林雅秀・山本伸幸「林業経営統計調査から見た世帯，支出，および所得」林業経済学会秋季大会（岩手大学）、2008 年 11 月 15 日
- 高橋正也・比屋根哲・林雅秀「社会ネットワーク分析による農村集落住民ネットワークの把握」林業経済学会秋季大会（岩手大学）、2008 年 11 月 16 日
- 林雅秀・岡裕泰・田中亘・久保山裕史「森林所有者の意思決定と社会関係」日本森林学会大会（京都大学）、2009 年 3 月 26 日
- 山本伸幸・林雅秀・田中亘「2005 年農林業センサス「農林業経営体」概念の予備的検討」日本森林学会大会（京都大学）、2009 年 3 月 26 日
- 岡裕泰・林雅秀・田中亘・久保山裕史「森林所有者の主伐—更新意思決定と地域における長期的木材供給」日本森林学会大会（京都大学）、2009 年 3 月 27 日
- Hayashi, Masahide and Tomomasa Amano, "Effects of Networks Composed of Loggers and Forest Owners on Forest Management," International Symposium on Society and Resource Management hosted by The University of Natural Resources and Applied Life Sciences in Vienna, July 8th 2009
- [林雄亮]（2005.4～）
- 林雄亮、「社会階層・移動の地域間格差」関東社会学会、2005 年 6 月 19 日
- 林雄亮、「現代日本の不平等感—仙台市民意識調査の分析」東北社会学会大会（岩手県立大学）、2006 年 7 月 30 日
- 林雄亮、「不平等感と階層イメージの変化—仙台市民意識調査の分析」日本社会学会大会（立命館大学）、2006 年 10 月 28 日

- Yusuke Hayashi, "Social Consciousness in Unequal Society," 21st COE Program: Center for the study of Social Stratification and Inequality International Symposium on Social Stratification, Social Mobility, and Inequality in East Asia, Miyagi, 2007, February
- 林雄亮、「格差意識と不平等感—『2006年格差と不平等に関する宮城県民意識調査』の分析」数理社会学会大会（九州大学）、2007年3月3日
- 林雄亮、「現代日本社会における地位の非一貫性問題—2005年SSM調査の分析」東北社会学会大会（東北福祉大学）、2007年7月
- 金澤悠介・針原素子・林雄亮・籠谷和弘・小林盾、「信頼と社会関係資本に関する地域比較—社会調査データによる検討」数理社会学会大会（広島修道大学）、2007年9月15日
- 林雄亮、「現代における社会的地位の一貫性問題」日本社会学会大会（関東学院大学）、2007年11月18日
- Hayashi, Yusuke, "Fluidization of the Labor Market and Social Disparity in Japan: Focusing on Intra-generational Mobility using SSM2005 data," Inequalities and Disparities in East Asia: A Tohoku University & NUS Joint Forum of Sociology & Stratification Studies at National University of Singapore, Singapore, 19 February 2009
- Hayashi, Yusuke, "Fluidization of the Labor Market in Postwar Japan," The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia at Yonsei University, Seoul, 13 March 2009
- Sato Yoshimichi and Yusuke Hayashi, "Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization," ISA-RC28 2009 Spring Meeting at Renmin University, Beijing, 14 May 2009
- Hayashi, Yusuke and Yoshimichi Sato, "Fluidization of the Labor Market and Disparity in Postwar Japan," The 9th Conference of Asia-Pacific Sociological Association at Discovery Kartika Plaza Hotel, Bali, 14 June 2009
- 林雄亮、「ワーキングプア層の変化と移動メカニズム」第56回東北社会学会大会（東北学院大学）、2009年7月20日
- Hayashi, Yusuke, "Fluidization of the Labor Market in Contemporary Japan:

Introduction of the SSM data and Some Empirical Results," International Convention of Asia Scholars 6 at Daejoen Convention Center, Daejoen, 6 August 2009

[堀内史朗] (2004.4~2007.3)

堀内史朗、「ボノボ→チンパンジー→ヒトの進化：環境条件と集団サイズ格差」、日本霊長類学会、2005年7月3日

堀内史朗、「地域社会と「よそもの」の関係：秋田県八森町サル追い上げボランティアの研究」日本社会学会、2005年10月22日

Shiro Horiuchi, "What Causes variations into the group structure of Japanese macaques (*Macaca fuscata*)?," International Mammalogical Congress, 2005

堀内史朗、「ボノボ→チンパンジー→ヒトの進化—サバンナ環境が集団格差の縮小を招いた」数理社会学会、2006年3月5日

[本郷正武] (2004.4~2007.3)

本郷正武、「セルフヘルプ・グループにおけるライフコースの重層性—個人のライフステージと組織変動との連関の分析に向けて」、日本保健医療社会学会、2005年5月14日

本郷正武、「市民活動団体による予防啓発活動の実践—「強制」と「共生」のジレンマを超えて」、日本エイズ教育学会、2005年10月16日

本郷正武、「ライフコースの重なりが結ぶセルフヘルプ・グループ像—会の継続の契機と『教えること』の伝承」、日本社会学会、2005年10月22日

本郷正武、「非告知方針が生み出した「疑心暗鬼」—薬害 HIV 感染者の聴き取り調査から」東北社会学会大会（岩手県立大学）、2006年7月29日

[門間由記子]

門間由記子、「地域コミュニティと自営業者—“住み続けられる地域づくり”における NPO との協働の可能性」日本地域ガバナンス学会第2回大会、2005年7月

[余田翔平] (2008.4~)

余田翔平、「父不在高校生の教育アスピレーション」東北社会学会（東北学院大学）、2009年7月20日

3 大学院生・学部生等の受賞状況

金澤悠介, July 2005, Sapporo Best Paper Awards: Third US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology

神林啓人、平成 20 年度 東北大学総長賞（卒業論文）

「学歴再生産メカニズムの分析—学歴下降回避説の検討」、2009 年 3 月

4 日本学術振興会研究員採択状況

2005 年度 PD 受け入れ 1 人

2006 年度 な し

2007 年度 な し

2008 年度 な し

2009 年度 PD 受け入れ 1 人、RPD 受け入れ 1 人

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2005 年度

学部（研究生）2 名

長春工業大学（中国）、Rajshahi 大学（バングラディッシュ）、
大学院 2 名（うち特別聴講学生 1 名）

蘇州大学（中国）、全北大学（韓国）

2006 年度

学部（研究生）4 名

長春工業大学（中国）、Rajshahi 大学（バングラディッシュ）、Padjadjaran
大学（インドネシア）、大連外国語学院大学

大学院 1 名

蘇州大学（中国）

2007 年度

学部（研究生）1 名、大学院 3 名

Rajshahi 大学（バングラディッシュ）、Padjadjaran 大学（インドネシ
ア）、大連外国語学院大学

2008 年度

学部（研究生、特別聴講学生） 2名、大学院 3名

Rajshahi 大学（バングラディシュ）、Padjadjaran 大学（インドネシア）、大連外国語学院大学、上海外国語大学、西江大学校（大韓民国、東北大学直接配置交換留学プログラムによる）

2009 年度

学部（特別聴講学生） 1名、大学院 4名

Rajshahi 大学（バングラディシュ）、Padjadjaran 大学（インドネシア）、大連外国語学院大学、上海外国語大学、西江大学校（大韓民国、東北大学直接配置交換留学プログラムによる）

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
05	0 (2)	2	2 (2)
06	0 (4)	1	1 (4)
07	0 (1)	3	3 (1)
08	1 (1)	3	4 (1)
09	1 (0)	4	5 (0)
計	0 (9)	9	9 (9)

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
05	0	0	0
06	1	1	2
07	2	2	4
08	1	2	3
09	0	0	0
計	4	5	9

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

神林博史、東北学院大学教養学部、2005 年度

三輪 哲、東京大学社会科学研究所、2005 年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員 1名、
通訳 0名、
ジャーナリスト 1名、
出版社社員 0名

8 客員研究員の受け入れ状況

2008年度 Kim Jikyung (大韓民国、私費)

9 外国人研究者の受け入れ状況

2005年度 Michael Macy 客員教授
2005年度 Nahum Chandler フルブライト招聘講師
2007年度 David Grusky 客員教授
2008年度 Paul A. Kowert フルブライト招聘講師

10 刊行物（専攻分野刊行のもの）

本研究室では、全国学会、もしくは海外での研究成果の報告を奨励していることから、研究室独自の定期刊行物の刊行はおこなっていない。（なお、研究室構成員は、これまで、日本社会学会、数理社会学会、行動計量学会の機関誌編集委員長となり、内外の他学会機関紙の編集委員担当も含め、学術情報の発信には積極的に貢献している。）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2005年度

東北大学教育文化研究会事務局
2005年社会階層と社会移動調査研究会事務局
生活環境研究会事務局
東北大学教育文化研究会事務局
東北行動計量学研究会事務局

2006年度

2005年社会階層と社会移動調査研究会事務局
東北大学教育文化研究会事務局

東北行動計量学研究会事務局

2007 年度

2005 年社会階層と社会移動調査研究会事務局

東北大学教育文化研究会事務局

2008 年度

第 81 回日本社会学会大会実行委員会（委員長：原 純輔、幹事：佐藤
嘉倫、事務局長：本郷正武）

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局

東北大学教育文化研究会事務局

2009 年度

社会階層と社会移動図書刊行研究会事務局

東北大学教育文化研究会事務局

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2005 年度

生活環境研究会 仙台市における「暮らしと家庭ごみに関する調査」
（2005 年 2 月）

生活環境研究会 仙台市・名古屋市・水俣市における「家庭廃棄物（ご
み）に対する住民の意識と行動に関する調査」（2005 年 10 月）

2005 年社会階層と社会移動調査研究会「仕事と暮らしに関する全国調
査（社会階層と社会移動調査）」（2005 年 11 月）

生活環境研究会 仙台市・名古屋市・水俣市における「家庭廃棄物（ご
み）に対する住民の意識と行動に関する調査」（2005 年 12 月）

2006 年度

生活環境研究会 釜石市における「家庭廃棄物（ごみ）に対する住民の
意識と行動に関する調査」（2006 年 9 月）

東北行動計量学研究会 シンポジウム “Justice and Forgiveness in
Social Relations”（2007 年 3 月 24 日）

2007 年度

東北大学教育文化研究会 「教育と社会に対する高校生の意識」第 6
次調査（2007 年 10～12 月）

1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点」がスタートした2003年ごろを境に、本研究室の研究体制は大きく変容し、研究成果は質量ともに向上した。まず、海外からの客員教授や、日本学術振興会特別研究員、留学生、研究生などを受け入れることで、異なる学問分野との知的交流がより促進された。このことは、日本国内はもとより、世界に通じる研究を発信することにも寄与している。加えて、2005年度前後には、大規模な調査研究プロジェクトが本研究室を事務局に進行し、その準備等に大きな人員と労力を割いてきた。これらの機会を得て、多くの大学院生が自身の研究を展開させ、多くの研究成果を生み出した。現在、これらの調査結果の分析に取り組んでいるが、現時点で博士課程（後期）に在籍する大学院生の絶対数は十分であるとは言い難い。今後は、研究室を挙げて能力の高い院生の募集と育成に傾注する必要がある。博士学位授与件数は、2008年度に3件出ており、健闘していると考えている。今後は、後期3年で博士学位論文を提出する数を増やせるよう、指導をおこなっていききたい。

2008年度からは、グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」が採択された。行動科学研究室では、佐藤嘉倫教授がこの拠点リーダーであり、他の教授・准教授も全員、事業推進担当者としてこのプログラムに関わっている。このグローバル COE プログラムを通じて、行動科学専攻分野の大学院生の教育に力を入れていきたい。

学部生の教育については、これまでも社会調査をおこなうためのトレーニングを体系的に組んできた。そこで得られた専門性は、調査会社や行政などで十二分に活かされていると自負している。2004年度からは、「社会調査士資格」の認定カリキュラムの実施により、さらに多くの学生が社会調査を通じて教育の成果を社会に還元してくれることを願っている。なお、社会調査士資格認定機構（現在は一般社団法人社会調査協会となっている）の設立に際し、原純輔はカリキュラムの作成など初期からかかわり、現在も理事として尽力している。また、木村は2009年度より、社会調査協会の機関誌『社会と調査』の専門査読委員を依頼された。

学会活動では、学会の開催事務局を引き受けてはいないものの、教員および大学院生とも積極的に学会運営および報告に寄与している。数理社会学会、お

よび行動計量学会では、ほぼ毎年登壇しており、活発な議論を展開している。今後は、上記の研究プロジェクトに関する数多くの報告、特に国際学会での報告を期待している。学会役員としても、大きく貢献してきた。佐藤嘉倫が数理社会学会誌『理論と方法』の編集委員長（2003～2004年度）と、数理社会学会会長に（2005年度～2006年度）、木村邦博が監事となった（2005年度～2006年度）。浜田も現在、数理社会学会で理事をつとめている（2009年度～）。（なお、数理社会学会に関しては、原純輔、海野道郎がともに会長経験者である。）東北社会学会では2003～2005年度は原純輔が、2005～2007年度は海野道郎が学会長として学会運営の先頭に立って活動した。日本社会学会においても、海野道郎が編集理事（機関誌『社会学評論』編集委員長）として（2000～2003年度）、佐藤嘉倫が国際交流委員（2003年度～現在）および将来計画特別委員（2005年度～現在）として学会活動を支えた。また佐藤は国際社会学会理事（2006年度～現在）および合理的選択部会会長（2006年度～現在）として国際社会学会に貢献している。2006年度からは、海野が財務理事として、世界社会学会招致と法人化をめざす日本社会学会の財務運営を担当している。その他としては、木村が日本行動計量学会で理事をつとめた（2006年度～2008年度）ほか、現在は日本行動計量学会欧文機関誌編集委員会委員（2009年度～）、日本教育社会学会編集委員会委員（2007年度～）もつとめている。

グローバル COE プログラムをはじめ、多くの大規模な研究プロジェクトが本研究室を中心に進行する一方で、事務局機能が肥大化しているのも事実である。幸い、近隣の他大学の教員や、本研究室を修了した研究者が積極的にプロジェクトを担っており、同時並行で研究が進んでいる。今後も他大学との連携を図り、事務局体制をより一層強化することが求められよう。

Ⅲ 教員の研究活動（2005年度～2009年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

[海野道郎]（～2008.3）

海野道郎「父親の不公平感はなぜ低いのか—仙台都市圏における高校生調査の統計分析」『東北大学 東北文化研究室紀要』通巻46集、1-15頁、2005

海野道郎「誰が社会的ジレンマ状況を定義するのか？—社会的ジレンマ状況の定義と人々の行動—」『社会学研究』80号、7-28頁、2006〔小改訂の上、海野道郎編『廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学』（平成15～18年度科学研究費補助金研究成果報告書）、245-262頁、2007、に再録〕。

UMINO, Michio, “A sense of unfairness as strata consciousness in Contemporary Japan,” pp.34-54 in *Social Justice in Japan: Concepts, Theories and Paradigms*, edited by Ken’ichi Ohbuchi, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007

海野道郎「オーストラリアにおける環境問題—南オーストラリア州の廃棄物問題を中心として」船橋晴俊・平岡義和・平林祐子・藤川賢（編）。『日本及びアジア・太平洋地域における環境問題と環境問題の理論と調査史の総合的研究』（2003-2006年度科学研究費補助金研究成果報告書、研究代表＝帆足養右、課題番号1533011）、2007

海野道郎「経験科学の対象としての社会的ジレンマ—合理的選択理論に基づく方法論的検討—」海野道郎（編）『廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学—』（平成15～18年度科学研究費補助金研究成果報告書）、105-118頁、2007

海野道郎「社会的ジレンマ状況を捉える経験的枠組み」海野道郎（編）『廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学—』（平成15～18年度科学研究費補助金研究成果報告書）、263-276頁、2007

海野道郎・篠木幹子・工藤匠「社会調査における実査体制と回収率—Gomi調査の経験から」海野道郎（編）『廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学』（平成15～18年度科学研究費補助金研究成果報告書）、227-235頁、2007

[原 純輔]（～2009.3）

原 純輔「現代日本社会と新しい不平等—『社会階層と不平等研究教育拠点』開設記念講演から」『社会学研究』77号、1-15頁、東北社会学研究会、2005

原 純輔「統計調査の方法」中村捷編『人文科学ハンドブック—スキルと作法』、185-189頁、東北大学出版会、2005

原 純輔「社会階層研究と地域社会」『地域社会学会年報』18 集、45-61 頁、
地域社会学会、2006

Hara, Junsuke, “Contemporary Japanese Society and the New Inequalities: A
Frontier of Social Stratification and Inequality Research,” pp.3-17 in
Deciphering Stratification and Inequality: Japan and Beyond, edited by
Yoshimichi Sato, Trans Pacific Press, 2007,

原 純輔「社会調査活動を支えるもの」『先端社会研究』6 号、235-249 頁、
関西学院大学出版会、2007

原 純輔「『青少年の性行動全国調査』とその 30 年」日本性教育協会（編）
『「若者の性」白書—第 6 回青少年の性行動全国調査報告』、7-21 頁、
小学館、2007

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫「社会学の新しい分析道具—進化ゲーム理論とエージェント・ベ
ースト・モデル」『情報科学』第 25 号、1-11 頁、2005

佐藤嘉倫「市場における信頼関係とコミットメント関係」三隅一人（編）
『フォーマライゼーションによる社会学的伝統の展開と現代社会の解
明』（科学研究費研究成果報告書）、127-140 頁、2005

Sato, Yoshimichi, “Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of
Market Attractiveness on Trusting Behavior,” 与謝野有紀（編）『現代日
本における社会階層、ライフスタイル、社会関係資本の連関構造の分
析』（科学研究費研究成果報告書）、57-72 頁、2005 年

Sato, Yoshimichi, “Market, Trust, and Inequality: An Agent-based Model of
Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior and Inequality,” 『理
論と方法』、第 20 巻第 1 号、45-57 頁、数理社会学会、2005 年

佐藤嘉倫「日本型雇用慣行の弱体化とキャリア・イメージ—労働市場に焦
点をあてたキャリア・イメージの分析」尾嶋史章（編）『現代日本に
おけるジェンダーと社会階層に関する総合的研究』（平成 15 年度～平
成 16 年度科学研究費補助金・基盤研究(B)(1) 15330112 研究成果報告
書）、3-13 頁、2005

佐藤嘉倫、「自己組織的不平等の理論に向けて—エージェント・ベースト・
モデルと社会階層研究」『社会学研究』、第 77 号、65-80 頁、東北社
社会学研究会、2005

佐藤嘉倫、「市場における信頼関係とコミットメント関係」佐藤嘉倫・平松 闊（編著）『ネットワーク・ダイナミクス—社会ネットワークと合理的選択』、53-69 頁、勁草書房、2005

Sato, Yoshimichi, “Trust and Commitment in the Market,” pp.163-179 in *Relational Perspectives in Organizational Studies: A Research Companion*, edited by Olympia Kyriakidou and Mustafa F. Özbilgin, Cheltenham: Edward Elgar Publishing Inc., 2006

Sato, Yoshimichi, “Reflections on the Studies of the Middle Classes in Japan: Searching for a New Perspective,” pp. 51-60 in, *The Changing Faces of the Middle Classes in Asia-Pacific*, edited by Hsin-Huang Michael Hsiao, Taipei: The Center for Asia-Pacific Area Studies, RCHSS, Academia Sinica, 2006

佐藤嘉倫 「自己組織性とエージェント・ベースト・モデル」『理論と方法』第 21 巻第 1 号、1-10 頁、数理社会学会、2006

片瀬一男・佐藤嘉倫 「若年労働市場の構造変動と若年労働者の二極化」『社会学年報』 第 35 号、1-18 頁、東北社会学会、2006

Sato, Yoshimichi, “Deterioration in Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market,” pp. 127-139 in *Deciphering Stratification and Inequality: Japan and Beyond*, , edited by Yoshimichi Sato, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007

佐藤嘉倫・吉田崇 「貧困の世代間連鎖の実証的研究—所得移動の観点から—」 『日本労働研究雑誌』、 第 563 号、 75-83 頁、2007.

佐藤嘉倫 「格差社会論と社会階層論—格差社会論からの挑戦に込めて—」 『季刊経済理論』、 第 44 巻第 4 号、20-28 頁、2008

Sato, Yoshimichi, and Shin Arita. “Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea,” *Social Subsumption and Exclusion in East Asia*, Yonsei University Press, 2008. (Yoshimichi Sato and Shin Arita 共著 韓国語)

Sato, Yoshimichi, “Formation of Career Aspirations under Structural Constraints: A Comparative Study of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan,” 阿形健司（編）, 『働き方とキャリア形成』（2005SSM 調

- 査シリーズ 4)、2005 年 SSM 調査研究会、143-158 頁、2008
- Sato, Yoshimichi, “Disparity Society Theory and Social Stratification Theory: An Attempt to Respond to Challenges by Disparity Society Theory,” 佐藤嘉倫 (編) 『流動性と格差の階層論』 (2005SSM 調査シリーズ 15)、2005 年 SSM 調査研究会、1-20 頁、2008
- David B. Grusky, Yoshimichi Sato, Jan O. Jonsson, Satoshi Miwa, Matthew Di Carlo, Reinhard Pollak, and Mary C. Brinton, “Social Mobility in Japan: A New Approach to Modeling Trend in Mobility,” 渡邊勉 (編) 『世代間移動と世代内移動』 (2005SSM 調査シリーズ 3)、2005 年 SSM 調査研究会、1-25 頁、2008
- Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, “Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea,” 有田伸 (編) 『東アジアの階層ダイナミクス』 (2005SSM 調査シリーズ 13)、2005 年 SSM 調査研究会、43-54、2008
- 佐藤嘉倫「結果の不平等」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一 (編著) 『社会階層と不平等』、東京: 放送大学教育振興会、29-50 頁、2008
- 佐藤嘉倫「機会の不平等」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一 (編著) 『社会階層と不平等』、東京: 放送大学教育振興会、51-69 頁、2008
- 佐藤嘉倫「不平等の国際比較」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一 (編著) 『社会階層と不平等』、東京: 放送大学教育振興会、70-85 頁、2008
- 佐藤嘉倫「韓国社会の両極化と流動性」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一 (編著) 『社会階層と不平等』、東京: 放送大学教育振興会、119-136 頁、2008
- 佐藤嘉倫「エスニシティと階層・不平等」、原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一 (編著) 『社会階層と不平等』、東京: 放送大学教育振興会、192-208 頁、2008
- 佐藤嘉倫「社会関係資本の光と影」、土場学・篠木幹子 (編著)、『個人と社会の相克—社会的ジレンマ・アプローチの可能性—』、京都: ミネルヴァ書房、157-173 頁、2008
- 佐藤嘉倫「分野別研究動向 (階級・階層) —研究の展開とフロンティアの拡張—」、『社会学評論』、日本社会学会、第 59 巻第 2 号、388-404 頁、2008

- Sato, Yoshimichi, and Takashi Yoshida, “An Empirical Study of Intergenerational Transmission of Poverty from the Perspective of Income Mobility,” *Japan Labor Review*, Vol. 5, No. 4, 95-102, 2008
- 佐藤嘉倫「社会変動のミクローマクロ理論」、金子勇・長谷川公一（編）、『講座・社会変動 第1巻 社会変動と社会学』、51-76頁、京都：ミネルヴァ書房、2008
- 佐藤嘉倫「現代日本の階層構造の流動性と格差」、『社会学評論』、第59巻第4号、632-647頁、2009
- 佐藤嘉倫・有田伸「全球化、地方制度与日本中産階級」、李春玲（編）、『比較視野下的中産階級形成』、北京：社会科学文献出版社、2009（中国語）
- [木村邦博]
- 木村邦博「既発表文献の図表を用いた『2次分析』の方法—クロス集計表・相関行列などから多変量解析へ」原 純輔（編）『学術資源学の構想—平成15～17年度科学研究費補助金（萌芽）論文集』、41-56頁、2006
- Kimura, Kunihiro, and Mikiko Shinoki, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling. I. A Two-Stage Model of Rational Choice and Cognitive Dissonance Reduction,” 『理論と方法』 第22巻第1号、31-48頁、数理社会学会、2007年4月
- Shinoki, Mikiko, and Kunihiro Kimura, “Decision and Justification in the Social Dilemma of Recycling. II. Empirical Tests of Predictions from the Model,” 『理論と方法』 第22巻第1号、49-69頁、数理社会学会、2007
- Kimura, Kunihiro, “Education, Employment and Gender Ideology,” pp.84-109 in *Gender and Career in Japan*, edited by Atsuko Suzuki, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007
- 木村邦博「環境汚染問題の3つのモデル—社会的ジレンマと集団規模—」土場学・篠木幹子（編著）『個人と社会の相克—社会的ジレンマ・アプローチの可能性—』、53-75頁、ミネルヴァ書房、2008年3月
- 木村邦博「序章 調査の企画と実施」木村邦博（編）『教育と社会に対する高校生の意識—第6次調査報告書—』、1-14頁、東北大学教育文化研究会、2009年3月
- 木村邦博「高校生の規範意識の現状—コールバーグの道徳性発達理論にも

とづく検討一」木村邦博（編）『教育と社会に対する高校生の意識—第6次調査報告書—』、103-120頁、東北大学教育文化研究会、2009年3月

木村邦博「『問い』を主題とした学説研究の重要性—科学としての社会学と歴史学としての社会学史の発展のために—」（特集 学説研究と数理・計量社会学）『社会学年報』、No.38、31-41頁、東北社会学会、2009年7月

Kimura, Kunihiro, “Sex-Based Discrimination Trends in Japan, 1965-2005: The Gender Wage Gap and the ‘Marriage Bar,’” in *Discrimination in an Unequal World*, edited by Miguel Centeno and Katherine Newman. New York: Oxford University Press. (印刷中)

[浜田 宏]

石田淳・浜田宏「仮想的機会調整による不平等分析—ブートストラップ法による機会調整前後のジニ係数の有意差検定—」『理論と方法』、第20巻第1号、109-125頁、数理社会学会、2005

浜田宏・七條達弘「社会化の先取りの数理モデル」三隅一人（編）『フォーマライゼーションによる社会学的伝統の展開と現代社会の解明』（科学研究費助成研究報告書 基盤研究(B)(1)課題番号 14310084）、105-116、2005

Hamada, Hiroshi. “Justice Evaluation and History of the Iterated Investment Game,” 三隅一人（編）『フォーマライゼーションによる社会学的伝統の展開と現代社会の解明』（科学研究費助成研究報告書 基盤研究(B)(1) 課題番号 14310084）、151-164頁、2005

Hanada, Hiroshi, “Parametric Decomposition of the Gini Coefficient: How Change of Subgroup Affect an Overall Inequality” 『理論と方法』、第20巻第2号、数理社会学会、241-256頁、2005

浜田宏「客観的幸福と主観的幸福」『社会・経済システム』第27号、71-84頁、2006

浜田宏「数理社会学者の課題—弱い経験的妥当性と意味の問題について—」『理論と方法』第21巻第2号、数理社会学会、183-198頁、2006

石田淳・高坂健次・浜田宏「住宅再建共済制度に関する数理社会学的考察I—資産ダメージ率の分析—」『先端社会研究』、第5号、219-236頁、2006

浜田宏・石田淳・高坂健次「住宅再建共済制度に関する数理社会学的考察
II—加入率の分析」、『先端社会研究』、第5号、237-266頁、2006

高坂健次・石田淳・浜田宏「住宅再建共済制度に関する数理社会学的考察
III—行政コストの分析」『先端社会研究』、第5号、267-285頁、2006

浜田宏「進学率と世代間移動の数理モデル」『社会学評論』、第58巻第4
号、608-624頁、2008

浜田宏・石田淳「個人収入の適正感と満足度」、土場学（編）『公共性と
格差』、2005年SSM調査研究会.科学研究費補助金特別研究「現代日本
階層システムの構造と変動に関する総合的研究」成果報告書（2005年
SSM調査シリーズ7）、45-56頁、2008

浜田宏「進学と世代間移動の合理的選択モデル—MMI仮説の定式化」、渡
邊勉（編）『世代間移動と世代内移動』2005年SSM調査研究会.科学研
究費補助金特別研究「現代日本階層システムの構造と変動に関する総
合的研究」成果報告書（2005年SSM調査シリーズ3）、111-128頁、
2008

浜田宏「幸福の測り方」高坂健次（編）『幸福の社会理論』、66-77頁、放
送大学出版協会、2008

浜田宏「幸福感の現状」高坂健次（編）『幸福の社会理論』、78-88頁、放
送大学出版協会、2008

浜田宏「幸福な社会のデザイン」高坂健次（編）『幸福の社会理論』、89-99
頁、放送大学出版協会、2008

浜田宏「相対リスク回避モデルの再検討—Breen and Goldthorpe モデ
ルの一般化」『理論と方法』第24巻第1号、数理社会学会、57-76
頁、2009

浜田宏「N人ジレンマの提携形ゲーム」『理論と方法』第24巻第2
号、数理社会学会、2009、印刷中

[本郷正武]

本郷正武・星敦士「スローフード運動における良心的支持者—誰が『食』
のオルタナティブ運動を担っているのか」『甲南大學紀要 文学編』、
151号、1-21頁、2008

本郷正武・蘭由岐子・大北全俊・若生治友「いわゆる「集団告知」の多声
的記述」、好井裕明（編）『被害当事者・家族のライフヒストリーの

社会学的研究—薬害 HIV 感染被害問題を中心に』（平成 17 年～19 年度科学研究費補助金（基盤研究(B) 研究成果報告書）、49-65 頁、2008 本郷正武「医師—患者間の「すれ違い」が招来した問題系—いわゆる「集団告知」の多声的記述」『文化』（印刷中）

1-2 著書・編著

[海野道郎]

中村 捷・花登正宏・千種眞一・松本宣郎・海野道郎（編）、『人文社会学ハンドブック』、東北大学出版会、2005

海野道郎（編著）『廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学—』、平成 15～18 年度科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究 (A) 課題番号（15203021））、2007

[原 純輔]

原 純輔・浅川達人『社会調査』、放送大学教育振興会、2005

Hara, Junsuke, and Kazuo Seiyama (trans. by Brad Williams), *Inequality amid Affluence: Social Stratification in Japan*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2005

原 純輔（編）『学術資源学の構想—平成 15～17 年度科学研究費補助金（萌芽）論文集』、2006

盛山和夫・原 純輔（監修）『現代日本社会階層調査研究資料集—1995 年 SSM 調査報告書』（全 6 巻）、日本図書センター、2006

原 純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編）『社会階層と不平等』、放送大学教育振興会、2008

原 純輔（編）『リーディングス戦後日本の格差と不平等 2 —広がる平等神話 1971-1985』、日本図書センター、2008

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫・平松闊（編著）『ネットワーク・ダイナミクス—社会ネットワークと合理的選択』、勁草書房、2005

Sato, Yoshimichi, *Intentional Social Change: A Rational Choice Theory*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2006.

Sato, Yoshimichi (ed.), *Deciphering Stratification and Inequality: Japan and Beyond*, Melbourne: Trans Pacific Press, 2007.

- 佐藤嘉倫（編）『流動性と格差の階層論』（2005SSM 調査シリーズ 15）、
2005 年 SSM 調査研究会、2008
- 原純輔・佐藤嘉倫・大淵憲一（編著）『社会階層と不平等』、東京：放送
大学教育振興会、2008
- 佐藤嘉倫『ワードマップ ゲーム理論——人間と社会の複雑な関係を解く』、
東京：新曜社、2008
- [木村邦博]
- 木村邦博『日常生活のクリティカル・シンキング—社会学的アプローチ—』、
河出書房新社、2006
- 木村邦博（編）『教育と社会に対する高校生の意識—第 6 次調査報告書—』、
東北大学教育文化研究会、2009 年 3 月
- [浜田宏]
- 浜田宏『格差のメカニズム—数理社会学的アプローチ』、勁草書房、2007
- [本郷正武]
- 本郷正武『HIV/AIDS をめぐる集合行為の社会学』、ミネルヴァ書房、2007
- 本郷正武「いわゆる「集団告知」の多声的記述」『医師と患者のライフス
トーリー—輸入血液製剤による HIV 感染問題調査研究 最終報告書 第一分冊
論考編』松籟社、478-501 頁、2009
- 本郷正武「「薬害 HIV 期」を生きた医師のライフヒストリー—マイノリテ
ィ意識に裏打ちされた医師観の形成」『医師と患者のライフストーリ
ー—輸入血液製剤による HIV 感染問題調査研究 最終報告書 第一分冊
論考編』松籟社、145-167 頁、2009
- 本郷正武「「牽制し合う」意思—患者関係」『医師と患者のライフストー
リー—輸入血液製剤による HIV 感染問題調査研究 最終報告書 第一分
冊 論考編』松籟社、192-218 頁、2009
- 本郷正武「NPO・ボランティア—「良心的支持者」からなる集合行為」『飛
ぶ社会学』ミネルヴァ書房、印刷中
- 本郷正武「医療をめぐる社会運動」『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ
書房、印刷中

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

[海野道郎]

海野道郎「今田高俊『自己組織性と社会』（東京大学出版会、2005年）書評」『理論と方法』、第20巻第2号、261-263頁、数理社会学会、2005

海野道郎・小林盾「人物と文献：数理社会学の歴史と展開」、土場学・小林盾・佐藤嘉倫・数土直紀・三隅一人・渡辺勉（編著）『社会を〈モデル〉で見る—数理社会学への招待』、203-220頁、勁草書房、2004

海野道郎「ザイゼル『数字で語る』を語る（解説）」H. Zeisel 著、佐藤郁哉訳『数字で語る』東京：新曜社、265-273頁、2005

海野道郎「社会調査と匿名性」『月刊 言語』第34巻第6号、4-5頁、大修館書店、2005

海野道郎「現代社会を評価する(1) 地位や豊かさの配分原理：理想と現実」『エストレーラ (ESTRELA)』第148号、46-49頁、(財)統計情報研究開発センター、2006

海野道郎「現代社会を評価する(2) 現代日本は公平な社会か：全般的な不公平感と領域別不公平感」『エストレーラ (ESTRELA)』第149号、44-47頁、(財)統計情報研究開発センター、2006

海野道郎「現代社会を評価する(3) 不公平感はどこからくるのか：全般的な不公平感の規定要因」『エストレーラ (ESTRELA)』第150号、50-53頁、(財)統計情報研究開発センター、2006

海野道郎「現代社会を評価する(4) 不公平感と不満感はどのように違うのか：評価水準の問題」『エストレーラ (ESTRELA)』第151号、40-43頁、(財)統計情報研究開発センター、2006

海野道郎「現代社会を評価する(5) 父親の不公平感はなぜ低いのか：不公平感の男女間・親子間比較」『エストレーラ (ESTRELA)』第152号、42-45頁、(財)統計情報研究開発センター、2006

海野道郎「現代社会を評価する(6) 高学歴者の学歴不公平感はなぜ高いのか：パラドックスの解明」『エストレーラ (ESTRELA)』第153号、46-49頁、(財)統計情報研究開発センター、2006年

海野道郎「家庭廃棄物（ごみ）に対する住民の意識と行動」『中央調査報』第588号、1-5頁、2006

海野道郎「ホームズの肩の上に乗って—書評・橋本茂著『交換の社会学』
世界思想社、2005年—」『社会学研究』、80号、265-269頁、東北社
社会学研究会、2006

海野道郎、「書評 白波瀬佐和子編『変化する社会の不平等—少子高齢化
社会に潜む格差—』東京大学出版会、2006.」『大原社会問題研究所雑
誌』第578号、49-52頁、2007

[原 純輔]

原純輔「書評：吉川徹著『学歴と格差・不平等—成熟する日本型学歴社会』」
『日本労働研究雑誌』第558号、71-73頁、労働政策研究・研修機構、
2007

[佐藤嘉倫]

鈴木淳子・佐藤嘉倫「ディスカッションに親しもう」中村捷（編）『人文
科学ハンドブックスキルと技法』、87-93頁、東北大学出版会、2005

佐藤嘉倫「研究の道具としてのコンピュータ・シミュレーション」中村捷
（編）『人文科学ハンドブックスキルと技法』、189-192頁、東北大
学出版会、2005

佐藤嘉倫「フリーター問題に寄り添って」『Business Labor Trend』、2008
年4月号、40頁、2008.

佐藤嘉倫「社会階層研究の今日から明日へ」『学術の動向』、2008年4月
号、70-71頁、2008

佐藤嘉倫「学問において『わからない』という勇氣」『文学部・文学研究
科ブックレット 考えるということ』第3巻、2-8頁、2008

佐藤嘉倫「正規雇用と非正規雇用の比較による労働市場と社会階層との関
係を実証的に解明」『科研費NEWS』、2008年 Vol.1、3頁、2008

佐藤嘉倫「社会階層と不平等の問題を多面的に研究—格差問題に一石」『東
北大学アニュアルレビュー2008』、6頁、2008

佐藤嘉倫「2005年社会階層と社会移動調査の概要」『よろん』、第102号、
53-55頁、2008

佐藤嘉倫「俯瞰する力、具体的に堪える力」『文学部・文学研究科ブックレ
ット 考えるということ』第4巻、2-9頁、2008

Sato, Yoshimichi, “Review: Civil Society What and How: Jeffrey C. Alexander,
The Civil Sphere. New York and Oxford: Oxford University Press, 2006.”

- International Sociology*, Vol. 24, No. 2, 262-272, 2009 佐藤嘉倫「社会階層と不平等の問題を多面的に研究—格差問題に一石」『東北大学アニュアルレビュー2008』（印刷中）
- 佐藤嘉倫「2005年社会階層と社会移動調査の概要」『よろん』（印刷中）
[木村邦博]
- 木村邦博「社会的ジレンマ」潮村公弘・福島治（編著）『社会心理学概説』、157-165頁、北大路書房、2007
- 木村邦博「競争と協同」日本社会心理学会（編集）『社会心理学事典』、342-343頁、丸善、2009
[浜田宏]
- 浜田宏「繰り返しゲームによる所得分布の生成」数土直紀・今田高俊（編）『数理社会学シリーズ第1巻 数理社会学入門』、187-210頁、勁草書房、2005
- 浜田宏「囚人のジレンマ」大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一（編）『社会文化理論ガイドブック』、53-56頁、ナカニシヤ出版、2006
- 浜田宏「リベラルパラドクス」大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一（編）『社会文化理論ガイドブック』、227-230頁、ナカニシヤ出版、2006
- 浜田宏「書評 白波瀬佐和子編『変化する社会の不平等—少子高齢化社会に潜む格差—』東京大学出版会、2006」『理論と方法』、第21巻第2号、350-353頁、数理社会学会、2006
- 浜田宏「書評 藤本昌代『専門職の転職構造—組織準拠性と移動』文眞堂、2005」『ソシオロジ』、第52巻第2号、126-129頁、社会学研究会、2007
- 浜田宏「書評リプライ 武藤氏の書評に答える」『理論と方法』、第24巻第1号、139-141頁、数理社会学会、2009
[本郷正武]
- 本郷正武・徳川直人（訳）「誰のために—質的研究における表象／代弁と社会的責任」平山満義（監訳）『質的研究ハンドブック 1巻 質的研究のパラダイムと眺望』、87-114頁、北大路書房、2006（=Fine, M., L. Weis, S. Weseen, and L. Wong, 2000, “For Whom?: Qualitative Research, Representations, and Social Responsibilities,” pp.107-131 in *Handbook of Qualitative Research (second edition)*, edited by N. K. Denzin and Y. S.

Lincoln)

本郷正武「書評に込めて（拙著『HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学』に対する宮垣元氏の書評に対して）」『ソシオロジ』166号、印刷中

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

[海野道郎]

Umino, Michio and Mikiko Shinoki, “How can we solve social dilemmas?:

Quantitative analysis of pro-environmental behavior in Japan,” ISSRM2006 (The 12th International Symposium on Society and Resource Management, June 3-8, 2006. Vancouver, Canada.) (section “Environmental behaviour in urban Regions,” oral presentation), June 7, 2006

Shinoki, Mikiko and Michio Umino, “Recycling Behavior and Mechanism of Justification: Empirical Analyses of the Survey in Sendai, Nagoya, and Minamata Cities, Japan” ISSRM2006 (The 12th International Symposium on Society and Resource Management, June 3-8, 2006. Vancouver, Canada.) (section “Environmental behaviour in urban regions,” oral presentation), June 7, 2006

Umino, Michio. “How do people behave in social dilemma situation?:

Pro-environmental behavior vs. rational choice,” Sociological Conference for the Korean Sociological Association, 2006年6月15-16日

海野道郎「現代日本の不公平感：知見の概要」、韓国日本学会ソウル部会、2006年6月17日

Umino, Michio, and Mikiko Shinoki, “Do People Love Costly System?: The

Micro-Macro Analysis toward the Paradox of the Positive Correlation between the High-cost Waste Separation System and the Positive Evaluation toward the System,” TASA2006(Annual Conference of The Australian Sociological Association. The University of Western Australia, 4-7 December 2006)(Stream: Urban & Rural Sociology, Theme: The Economics of Lifestyle)

Shinoki, Mikiko, and Michio Umino, “The feature of waste management system affecting recycling behaviors in Japan,” TASA2006 (Annual Conference of

The Australian Sociological Association. The University of Western Australia, 4-7 December 2006)(Stream: Urban & Rural Sociology, Theme: Technology and Sustainable Environment)

[佐藤嘉倫]

Sato, Yoshimichi, "Trust and Commitment Formation in the Market," The Third US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology, Hokkaido University, June 24-26, 2005

Sato, Yoshimichi, "Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market," The 100th Annual Meeting of the American Sociological Association, Philadelphia, August 13-16, 2005

Sato, Yoshimichi, "Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market," Zentrum für Umfragen, Methoden und Analysen, Mannheim, Germany, August 29, 2005

Sato, Yoshimichi, "Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market," (Poster Presentation), The 2nd Japanese-German Frontiers of Science Symposium, 湘南国際村, 2005年11月3-5日

Sato, Yoshimichi, "Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market," New Directions in Inequality and Stratification, Princeton University, April 6-8, 2006.

Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Trust in Japan and Korea: How Can We Solve Korean Puzzles in the Study of Trust?" The International Session "Social Trust, Work, and Occupation in Korea and Japan" of the KGSS Symposium 2006, Seoul, May 18, 2006.

Sato, Yoshimichi, "Trust, Inequality, and Commitment: Effect of Commitment on the Relationship between Trust and Inequality," The XVI ISA World Congress of Sociology, Durban, South Africa, July 23-29, 2006.

Sato, Yoshimichi, "Trust and Social Mobility: An Empirical Study of the Effect of Job Change on Trust," The 101st Annual Meeting of the American

- Sociological Association, Montreal, August 10-14, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "Trust and Social Mobility: An Empirical Study of the Effect of Job Change on Trust", The 4th CEFOM/21 International Symposium: Cultural and Adaptive Bases of Human Sociality, The International House of Japan, Tokyo, September 9-10, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Trust in Japan and Korea: How Can We Solve Korean Puzzles in the Study of Trust?" The International Conference on The Global Futures of World Regions: The New Asia and the Vision of East Asian Sociology, Seoul, Korea, September 28 and 29, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "Impact of Globalization on Inequality in Japan and Korea: Focusing on Social Mobility of Middle Classes," CRED Seminar, Queen Mary College, University of London, December 13, 2006.
- Sato, Yoshimichi, "An Analysis of Social Structural Effects on Status Attainment Process," International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Japan and Korea, Sendai Excel Hotel Tokyu, Japan, January 22, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior," International Symposium on Frontiers of Sociological Inquires by Young Scholars in Japan and Korea, Sendai Excel Hotel Tokyu, Japan, January 22, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Career Aspirations in Japan and Korea: A Preliminary Analysis of the 2005 Social Stratification and Social Mobility Data," International Symposium on Social Stratification, Social Mobility, and Inequality in East Asia, Sendai Excel Hotel Tokyu, Japan, February 3, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Career Aspirations in Japan and Korea: A Preliminary Analysis of the 2005 Social Stratification and Social Mobility Survey Data," University of Texas, Austin, March 22, 2007.
- Sato, Yoshimichi, "Social Surveys and Their Infrastructure in Japan," 社会調査とそのインフラストラクチャーのコンソーシアム主催、「国際シンポジウム 社会調査とそのインフラストラクチャー—グローバルな視点から—」、国際交流基金・国際会議場, 2007年3月30日.

Sato, Yoshimichi, "Deterioration in the Japanese Employment Practice and Career Images: An Analysis of Career Images Focusing on the Japanese Labor Market," The 13th Brazilian Sociological Congress, Recife, Brazil, May 29-June 1, 2007.

Sato, Yoshimichi and Shin Arita, "Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: An Analysis of the Interaction between Globalization and Local Institutions Focusing on Changes in Social Mobility of Middle Classes," International Forum: Middle Class Research with Comparative Perspective, The 17th Annual Meeting of the Chinese Sociological Association, Changsha, Hunan, China, July 21-22, 2007.

Sato, Yoshimichi, "Local Social Capital, Global Social Capital, and Inequality: An Agent-based Model of the Effect of Commitment on the Relationship between Trust and Inequality," The 102nd Annual Meeting of the American Sociological Association, New York, August 11-14, 2007.

Sato, Yoshimichi, "Local Social Capital, Global Social Capital, and Inequality: An Agent-based Model of the Effect of Commitment on the Relationship between Trust and Inequality," International Conference on Rational Choice and Social Institutions, Zurich, September 6-8, 2007.

Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, "Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: A Preliminary Analysis of the 2005 SSM Data," Yonsei International Conference, Yonsei University, Seoul, October 26-27, 2007

Sato, Yoshimichi, "Change in Income Inequality from 1995 to 2005 in Japan," International Symposium on Inequality in the 21st Century: What Are the Main Challenges of Our Time?, The Center for the Study of Social Stratification and Inequality, Tohoku University, Sendai, November 3-4, 2007.

Sato, Yoshimichi, "A Comparative Study of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan: A Preliminary Analysis of the 2005 Social Stratification and Social Mobility Data," International Conference on East Asian Comparative Research, National Taiwan University, Taipei, November 24-25, 2007.

Sato, Yoshimichi, "Disparity Society Theory and Social Stratification Theory: An Attempt to Respond to Challenges by Disparity Society Theory,"

- International Joint Symposium on “Socio-political Transformation in Globalizing Asia: Integration or Conflict?”, Waseda University, Tokyo, February 20-21, 2008.
- Sato Yoshimichi, “Rational Choice of Career Aspirations under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in East Asia,” The 103rd Annual Meeting of the American Sociological Association, Boston, August 1-4, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice of Career Aspirations under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan,” The 2008 Summer RC28 Meeting, Stanford, August 6-9, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice of Career Aspirations under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan,” The First ISA Forum of Sociology, Barcelona, September 5-8, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Contributions of Rational Choice Theory to Public Debate,” The First ISA Forum of Sociology, Barcelona, September 5-8, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Rational Choice of Survival Strategies in the Labor market: A Comparative Study of Career Aspirations in Japan, Korea, and Taiwan,” Symposium on Globalization and Social Changes, Department of Sociology, Chung-Ang University, November 20-21, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Trust and Communication,” Interdisciplinary Symposium on “Social Network and Trust,” Kyung Hee University, November 29, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Space, Social Stratification, and Social Capital: The Case of Tokyo,” ISA-RC21 Tokyo Conference 2008 on Landscapes of Global Urbanism: Power, Marginality, and Creativity, International House of Japan, Tokyo, December 17-20, 2008.
- Sato, Yoshimichi, “Stability and Fluidization of the Social Stratification System in Contemporary Japan,” DIJ Forum, Deutsches Institut für Japanstudien, January 22, 2009.
- Sato, Yoshimichi, “Economic Inequality and Social Stratification in Contemporary Japan,” Seminar, Program on U.S.-Japan Relations, Weatherhead Center for International Affairs, Harvard University, February

17, 2009.

Sato, Yoshimichi, "Space, Social Stratification, and Social Capital: The Case of Tokyo," The Third International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Department of Sociology, Yonsei University, March 12-13, 2009.

Sato, Yoshimichi, "Are Asian Sociologies Possible?: Universalism versus Particularism," ISA Conference of The Council of National Associations, Academia Sinica, Taiwan, March 23-25, 2009.

Sato, Yoshimichi, "Stability and Fluidization of the Social Stratification System in Contemporary Japan," Seminar at National Cheng-chi University, Taiwan, March 27, 2009.

Sato, Yoshimichi, and Shin Arita, "Globalization, Local Institutions, and Middle Classes: A Comparative Study of Social Mobility of Middle Classes in Japan and Korea," Conference on Dilemmas of the Middle Class Around the World, Princeton University, April 24-25, 2009.

Sato, Yoshimichi, and Yusuke Hayashi, "Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization," 2009 Spring Meeting RC28, Renmin University, May 14, 2009.

Sato, Yoshimichi, "Change and Stability in the Social Stratification System in Contemporary Japan: Coexistence of Stability and Fluidization," Joint Symposium on Globalization, Inequality and Social Stratification, University of California, Riverside, May 29-30, 2009.

Sato, Yoshimichi, "Social Capital and Inequality: An Agent-based Model of Trust, Opportunity, and Structural Holes," The 104th Annual Meeting of the American Sociological Association, San Francisco, August 10, 2009.

Sato, Yoshimichi, "Space, Inequality, and Social Capital: The Case of Tokyo," Brain Korea 21 Workshop, Korea University, August 20, 2009.

[木村邦博]

Kimura, Kunihiro, "Education, Employment, and Gender Ideology of Japanese Married Women: A Model of Rational Choice, Cognitive Dissonance, and the Segmented Labor Market," Third US-Japan Joint Conference on

- Mathematical Sociology, 北海道大学/札幌市, 2005年6月25日
- Kimura, Kunihiro, “Trends of Sex Discrimination in Japan, 1965-2000: The Gender Gap in Wage and the ‘Marriage Bar,’” (invited presentation) Conference on Global Studies of Discrimination, Princeton University, Princeton, New Jersey, USA, 2007年5月19日
- Kimura, Kunihiro, “Marriage, Sex Discrimination, and Inequality within the Sexes: Testing a Simple Model with the Data of Japan, 1965-2000,” International Conference on Rational Choice and Social Institutions, ETH Zurich, Switzerland, 2007年9月8日
- Kimura, Kunihiro, “Marriage, Sex Discrimination, and Inequality within the Sexes: Testing a Simple Model with the Data of Japan, 1965-2005,” Fourth Joint Japan-North America Mathematical Sociology Conference, Redondo Beach, California, USA, 2008年5月30日
- [浜田宏]
- Ishida, Atsushi, Kenji Kosaka, and Hiroshi Hamada, “Risk and Vulnerability Caused by Large-scale Disaster: Toward a New Perspective on Social Stratification.” The 7th Conference of Asia-Pacific Sociological Association, Bangkok and Mahidol University, Salaya campus, Bangkok Thailand, 2005
- Ishida, Atsushi, Kenji Kosaka and Hiroshi Hamada, “A Boolean Analysis of Human Well-being,” International Conference on Comparative Social Sciences, Sophia University, Tokyo, Japan, July 15-16, 2006
- Ishida, Atsushi, Hiroshi Hamada, and Kenji Kosaka, “How Many People in the World Will Be Better Off by Redistribution of Wealth?: A Virtual Redistribution Analysis.” The 8th Conference of the Asia Pacific Sociological Association, Penang, Malaysia, 19-22, November, 2007
- Ishida, Atsushi, Hiroshi Hamada, and Kenji Kosaka, “A Simulation Analysis of Effects of Global Redistribution of Wealth on Subjective Well-being in the World,” The 38th World Congress of International Institute of Sociology, Budapest, Hungary, June 26-30, 2008
- Hiroshi Hamada, “A Model of Inequality and Educational Attainment in Japan,” A Tohoku University & NUS Joint Forum of Sociology & Stratification Studies, National University of Singapore, Singapore,

February 18-19, 2009,

Hiroshi Hamada, “A Probability Model for Educational Attainment,”
The Third International Symposium on Frontiers of Sociological
Inquiries by Young Scholars in Asia, Yonsei University, Seoul,
Korea, March 12-13, 2009

Hiroshi Hamada, “A Rational Choice Model of Educational Attainment,”
The 9th Conference of the Asia Pacific Sociological Association,
Bali, Indonesia, June 13 -15, 2009

Hiroshi Hamada, “A Model of Educational Attainment: Effect of Social
Origin.” Logic, Game, Theory and Social Choice 6, University of
Tsukuba, Tsukuba, Japan, Aug 26-29, 2009

[本郷正武]

Hongo, Masatake, “Constructing Identity as Conscience Adherents: Identity
politics in Japanese AIDS NGOs,” Collective Behavior & Social Movement
Workshop (Hofstra Univ., Long Island, NY), August 9, 2007

Hongo, Masatake, “Involving with Collective Activities as Conscience
Adherents: AIDS Workshops in Japanese AIDS NGOs,” Society for the
Study of Symbolic Interaction Annual Meeting (New York), August 12,
2007

Hongo, Masatake, “Involving with Collective AIDS Activities as Conscience
Adherents: Toward to Remedy of Isolated PWA/H in Japan,” International
Sociological Association, Research Committee on Social Movements,
Collective Action and Social Change (RC48), Barcelona, Spain, September
6, 2008

(2) 国内学会

[海野道郎]

海野道郎・篠木幹子・工藤 匠「社会的ジレンマは社会的ジレンマか」、
第 52 回東北社会学会大会（宮城教育大学）、2005 年 7 月 30-31 日

海野道郎・篠木幹子「『社会的ジレンマ』は人々にとってもジレンマなの
か」、第 78 回日本社会学会大会（法政大学）、2005 年 10 月 22-23 日

篠木幹子・海野道郎「制度のタイプによるごみ分別行動に関する検討」、

第 16 回廃棄物学会研究発表会（仙台国際センター）、2005 年 10 月 31 日～11 月 2 日

海野道郎 ラウンドテーブル発題報告「社会的ジレンマ状況を人々はどのように捉えているのか？—合理的選択理論の経験的研究に向けて」、第 41 回数理社会学会大会（設立 20 周年記念大会）、2006 年 3 月 3 日-4 日

海野道郎「社会的ジレンマの経験的研究は可能か」、第 53 回東北社会学会大会、2006 年 7 月

海野道郎・篠木幹子「社会調査における社会的ジレンマの測定について：方法論的検討」行動計量学会 一般セッション「社会調査」（聖学院大学） 2006 年 9 月 14 日

海野道郎「廃棄物をめぐる人間行動と制度—調査プロジェクトの概要—」日本社会学会 第 79 回大会（立命館大学）2006 年 10 月

海野道郎「社会調査と公共財：公共財についての調査と公共財としての調査」（招待講演） 2006 年度世論調査協会研究大会（中央大学駿河台記念館）2006 年 11 月 10 日

海野道郎・篠木幹子「“KESAB”はなぜ元気か？—南オーストラリア州の環境 NPO の成功原因を探る」第 54 回東北社会学会大会（東北福祉大学）自由報告、2007 年 7 月 21-22 日

篠木幹子・海野道郎・阿部晃士「ごみ分別制度の特徴とコスト感がごみ分別行動に与える影響の分析」つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園 2-20-3） 2007 年 11 月 19-21 日

[原 純輔]

原純輔「社会階層研究と地域社会」、第 30 回地域社会学会大会、2005 年

原純輔「社会調査と倫理」、第 78 回日本社会学会大会、2005 年

原純輔「計量社会学の射程」、第 41 回数理社会学会大会、2006 年

[佐藤嘉倫]

佐藤嘉倫「グローバリゼーションと社会階層研究」、第 53 回関東社会学会大会、立教大学、2005 年 6 月 19 日

佐藤嘉倫「自己組織性とエージェント・ベースト・モデル」、第 40 回数理社会学会大会、同志社大学、2005 年 9 月 14 日

佐藤嘉倫「社会階層と機会の平等」、一橋大学経済研究所現代規範理論研

究会、2005年9月27日

前田忠彦・中尾啓子・佐藤嘉倫 “Sample Design in SSM Korean and Japanese Surveys,” 2006年度統計関連学会連合大会、仙台、2006年9月5-8日.

佐藤嘉倫「格差社会論と社会階層論—格差社会論からの挑戦に—」、
日本社会学会第80回大会シンポジウム「格差社会—その現状と未来—」、
関東学院大学、2007年11月17-18日.

佐藤嘉倫「大学院における社会調査教育の面白さと難しさ—東北大学行動
科学研究所の事例—」、関西学院大学 COE プログラム連続シンポジウ
ム「大学院における社会調査教育はどうあるべきか」第4回「社会調
査教育への提言と展望」、2007年12月8日.

Grusky, David B., Yoshimichi Sato, Jan O. Jonsson, Satoshi Miwa, Matthew Di
Carlo, Reinhard Pollak, and Mary C. Brinton, “Social Mobility in Japan: A
New Approach to Modeling Trend in Mobility,” 第45回数理社会学会大会、
東京・成蹊大学、2008年3月16-17日

佐藤嘉倫「適度に開放的な安心集団が信頼を醸成する—社会学研究にお
けるエージェント・ベースト・モデルの一例」第81回日本社会学会大
会テーマセッション(1)「社会学へのシミュレーションの可能性」、東北
大学、2008年11月23-24日.

佐藤嘉倫 “Trust, Assurance, and Inequality: A Rational Choice Model of
Mutual Trust,” 一橋ゲーム理論ワークショップ、一橋大学、2009年3月
5-7日.

佐藤嘉倫 “Space, Social Stratification, and Social Capital: The Case of
Tokyo,” 第47回数理社会学会、京都産業大学、2009年3月7-8日.

[木村邦博]

木村邦博 「現代日本女性にとっての学歴、就業、性別役割意識—ログリニ
ア・モデルによる分析」、日本行動計量学会第33回大会（長岡技術科
学大学）、2005年8月28日

木村邦博「既発表文献の図表を用いた『2次分析』の方法—クロス集計表・
相関行列などから多変量解析へ」（招待講演）、日本行動計量学会講
習会「社会調査士教育における多変量解析」、主催：日本行動計量学
会、共催：社会調査士資格認定機構・多摩大学（多摩大学ルネッサン
スセンター）、2005年11月27日

長谷川聡美・木村邦博「子育て意識の構造—自由回答データの計量分析」

日本行動計量学会第34回大会（聖学院大学）、2006年9月13日

大山美幸・木村邦博「大学生の逸脱行動の測定—ランダムイズド・レスポンス法の適用とその問題点」、日本社会心理学会第47回大会（東北大学）、2006年9月18日

木村邦博「『問い』を主題とした学説研究の重要性—科学としての社会学と歴史学としての社会学史の発展のために—」（課題報告・招待講演）、第55回東北社会学会大会（福島大学）、2008年7月19日

木村邦博「カテゴリカルデータ分析におけるグラフィカル表示と数式」（特別セッション「統計解析に数式はいるか？」）、日本行動計量学会第36回大会（成蹊大学）、2008年9月5日

[浜田宏]

浜田宏「客観的不幸と主観的幸福」、第24回社会・経済システム学会大会シンポジウム、（関西学院大学）、2005年11月

浜田宏・高坂健次「主観的幸福感の社会調査」第41回数理社会学会大会、東京大学、2006年3月

浜田宏「進学率と世代間移動の数理モデル—ブードンモデル一般化の試み」、第42回数理社会学会大会、明治学院大学、2006年9月23日

浜田宏「教育格差と世代間移動の合理的選択—MMI 仮説の数理モデル」、第44回数理社会学会大会、広島修道大学、2007年9月15日

浜田宏「N人ジレンマの提携」東北社会学会例会（東北大学）、2008年6月

浜田宏「提携形ゲームによるN人ジレンマの分析」第81回日本社会学会（東北大学）、2008年11月23日

浜田宏「演繹的研究のコアとしての数理モデル」第60回関西社会学会シンポジウム（京都大学）、2009年5月24日

浜田宏「社会学における数理モデルの可能性」第48回数理社会学会大会（北星学園大学）、2009年9月20日

[本郷正武]

本郷正武「NPO/NGOに社会運動性を見出すことの意義—HIV/AIDSをめぐる集合行為を事例として」（テーマセッション）、日本社会学会大会、関東学院大学、2007年11月18日

本郷正武「薬害 HIV 訴訟期の感染被害者の社会参加への道筋—『良心的支持者』としてのアイデンティティの獲得」、日本社会学会大会、東北大学、2008年11月24日

本郷正武「障害児をもつ親の会の「衰退」にみる親密圏の機能と役割」日本保健医療社会学会大会、熊本大学、2009年5月16日

2 教員の受賞歴（2005年度～2009年度）

佐藤嘉倫

2005年度 Best paper award, The Third US-Japan Joint Conference on Mathematical Sociology

2008年度 Book Award for Scholarly Excellence, Ministry of Culture, Sports and Tourism, Korea

IV 教員による競争的資金獲得（2005年度～2009年度）

（1）科学研究費補助金

2005年度

[海野道郎]

研究代表者 基盤研究(A) 「廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題解決の数理・計量社会学」、2003（平成15）年度—2006（平成18）年度（2005年度：15,900千円）

[原 純輔]

研究代表者 萌芽研究 「学術資源学の構想」、700千円

[佐藤嘉倫]

研究代表者 特別推進 「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」、直接経費 18,660万円、間接経費 5,598万円

[木村邦博]

研究分担者 萌芽研究 研究代表者：原純輔（東北大学） 「学術資源学の構想」（2003（平成15）年度—2005（平成17）年度）

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者：大淵憲一（東北大学） 「公共事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究—手続き的公正理論の応用」（2003（平成15）年度—2006（平成18）年度）

[浜田宏]

研究代表者 若手研究(B) 「社会構造の変動と不平等の数理社会学」
(2005年(平成17) - 2006年(平成18年度))

2006年度

[海野道郎]

研究代表者 基盤研究(A) 「廃棄物をめぐる人間行動と制度—環境問題
解決の数理・計量社会学」、2003(平成15)年度—2006(平成18)年
度 (2005年度: 6,900千円)

研究代表者 基盤研究(B)(海外調査) 「オーストラリアの廃棄物問題—
アデレード・メルボルンにおける多水準分析の試み」、2006(平成18)
年度—2008(平成20)年度 (2006年度: 1,500千円)

[原 純輔]

研究代表者 萌芽研究 「学術資源学の視点からみた戦後日本における
社会調査の展開と継承」、130万円

[佐藤嘉倫]

研究代表者 特別推進研究 「現代日本階層システムの構造と変動に関
する総合的研究」、直接経費 2,940万円、間接経費 882万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生のアスピレーション
と社会意識の形成過程」(2006(平成18)年度—2008(平成20)年度)、
直接経費 1,500千円、間接経費 450千円

研究分担者 萌芽研究 研究代表者: 原純輔(東北大学) 「学術資源
学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」(2006(平
成18)年度—2008(平成20)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者: 大淵憲一(東北大学) 「公共
事業政策の評価と合意形成の社会心理学的研究—手続き的公正理論の
応用」(2003(平成15)年度—2006(平成18)年度)

2007年度

[海野道郎]

研究代表者 基盤研究(B)(海外調査) 「オーストラリアの廃棄物問題—
アデレード・メルボルンにおける多水準分析の試み」、2006(平成18)
年度—2008(平成20)年度 (2006年度: 1,600千円)

[原 純輔]

研究代表者 萌芽研究 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」、120 万円

[佐藤嘉倫]

研究代表者 特別推進 「現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究」、直接経費 3,270 万円、間接経費 981 万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生のアスピレーションと社会意識の形成過程」(2006(平成 18)年度-2008(平成 20)年度)、直接経費 2,000 千円、間接経費 600 千円

研究分担者 萌芽研究 研究代表者:原純輔(東北大学) 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」(2006(平成 18)年度-2008(平成 20)年度)

[本郷正武]

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:好井裕明(筑波大学) 「被害当事者・家族のライフヒストリーの社会学的研究—薬害 HIV 感染被害問題を中心に」(2005(平成 17)年度-2007(平成 19)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:山田富秋(松山大学) 「「薬害 HIV」問題経験の社会学的研究—ナラティブ・アプローチから」(2007(平成 19)年度-2009(平成 21)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学) 「持続可能な都市形成に与えるソーシャルキャピトルの高価の国際比較」(2007(平成 19)年度-2008(平成 20)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学) 「地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション」(2007(平成 19)年度-2009(平成 21)年度)

2008 年度

[原 純輔]

研究代表者 萌芽研究 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」、70 万円

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(A) 「現代日本の階層状況の解明—ミクロ・マク

口連結からのアプローチ」、直接経費 970 万円、間接経費 291 万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生のアスピレーションと社会意識の形成過程」(2006(平成 18)年度-2008(平成 20)年度)、直接経費 2,300 千円、間接経費 690 千円

連携研究者 萌芽研究 研究代表者:原純輔(東北大学) 「学術資源学の視点からみた戦後日本における社会調査の展開と継承」(2006(平成 18)年度-2008(平成 20)年度)

[浜田宏]

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:高坂健次(関西学院大学) 「グローバルな富の再分配と主観的幸福の増大」(2008(平成 20)年度-2010(平成 22)年度)

[本郷正武]

研究代表者 若手研究(B) 「「薬害 HIV 訴訟」プロセスにおける当事者の社会的孤立の検討」(2008(平成 20)年度-2010(平成 22)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:山田富秋(松山大学) 「「薬害 HIV」問題経験の社会学的研究—ナラティブ・アプローチから」(2007(平成 19)年度-2009(平成 21)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学) 「持続可能な都市形成に与えるソーシャルキャピトルの高価の国際比較」(2007(平成 19)年度-2008(平成 20)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学) 「地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション」(2007(平成 19)年度-2009(平成 21)年度)

2009 年度

[佐藤嘉倫]

研究代表者 基盤研究(A) 「現代日本の階層状況の解明—ミクロ・マクロ連結からのアプローチ」、直接経費 970 万円、間接経費 291 万円

[木村邦博]

研究代表者 基盤研究(B) 「変動期における高校生の社会的態度・スキルの形成」(2009(平成 21)年度-2012(平成 24)年度)、直接経費 1,800 千円、間接経費 540 千円

[浜田宏]

研究代表者 若手研究(B) 「合理的選択および確率モデルによる階層研究」(2009年(平成21)–2011年(平成23年度))

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:高坂健次(関西学院大学)「グローバルな富の再分配と主観的幸福の増大」(2008(平成20)年度–2010(平成22)年度)

[本郷正武]

研究代表者 若手研究(B) 「「薬害 HIV 訴訟」プロセスにおける当事者の社会的孤立の検討」(2008(平成20)年度–2010(平成22)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:種田博之(産業医科大学)「『薬害 HIV』問題経験の社会学的研究—ナラティブ・アプローチから」(2007(平成19)年度–2009(平成21)年度)

研究分担者 基盤研究(B) 研究代表者:長谷川公一(東北大学)「地域社会における温暖化防止施策とコラボレーション」(2007(平成19)年度–2009(平成21)年度)

(2) その他

2005年度

[海野道郎]

事業推進担当者 21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,450 万円

研究代表者 カシオ科学振興財団研究助成金、「社会的ジレンマ問題の解決に関する行動科学的研究—水俣市における分別制度の形成・定着過程に学ぶ」、1,000 千円

[原 純輔]

事業推進担当者・COE 人材育成オフィス長 21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,450 万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー 21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,450 万円

[木村邦博]

事業推進担当者 21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠

点の形成」、直接経費 7,450 万円

2006 年度

[海野道郎]

事業推進担当者 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,831 万円、間接経費 783.1 万円

[原 純輔]

事業推進担当者・COE 人材育成オフィス長 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,831 万円、間接経費 783.1 万円

総長裁量経費 「グローバル化社会における不平等観の研究」、237 万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,831 万円、間接経費 783.1 万円

総長裁量経費 「グローバル化社会における不平等観の研究」、237 万円

[木村邦博]

事業推進担当者 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 7,831 万円、間接経費 783.1 万円

2007 年度

[海野道郎]

事業推進担当者 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250 万円、間接経費 825 万円

[原 純輔]

事業推進担当者・COE 人材育成オフィス長 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250 万円、間接経費 825 万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250 万円、間接経費 825 万円

[木村邦博]

事業推進担当者 21 世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」、直接経費 8,250 万円、間接経費 825 万円

2008 年度

[原 純輔]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

申請者 日本学術振興会・国際学会等派遣事業 「Rational Choice of Career Aspiration under Structural Constraints: Comparison of Career Aspirations in East Asia — 第 103 回アメリカ社会学会における論文報告」 205,530 円

申請者 (財)学術振興野村基金 「日本・韓国・台湾における労働市場とキャリア形成の比較研究—第 1 回社会学フォーラムにおける論文報告と諸活動—」 20 万円

開催責任者 日本学術振興会・国際研究集会 「国際社会学会・社会学博士課程学生のための国際ラボラトリー」 2,138 千円

[木村邦博]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 7,860 万円、間接経費 2,358 万円

2009 年度

[佐藤嘉倫]

拠点リーダー グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 10,010 万円、間接経費 3,003 万円

開催責任者 日本学術振興会・国際研究集会 「国際社会学会・社会学博士課程学生のための国際ラボラトリー」 金額未定

[木村邦博]

事業推進担当者・マイノリティ研究部門長 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」、直接経費 10,010 万円、間接経費 3,003 万円

[浜田宏]

事業推進担当者 グローバル COE プログラム「社会階層と不平等教育
研究拠点の世界的展開」、直接経費 10,010 万円、間接経費 3,003 万円

V 教員による社会貢献（2005 年度～2009 年度）

（1）政府・地方公共団体関係機関等の委員

海野道郎

2004 年 7 月 1 日－2006 年 6 月 30 日 仙台市廃棄物対策審議会委員
2006 年 7 月 1 日－2008 年 6 月 30 日 仙台市廃棄物対策審議会委員
2007 年 4 月 独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員等審査会専
門委員および国際事業委員会書面審査員
2007 年 5 月 1 日－平成 20(2008)年 3 月 31 日 大学共同利用機関法人
情報・システム研究機構 統計数理研究所 「統計数理研究書共同利
用体制外部評価委員」
2007 年 6 月 21 日－2008 年 3 月 20 日 独立行政法人国立環境研究所地
球推進費 H-052 「ライフスタイル変革のための有効な情報伝達手段
とその効果に関する研究」アドバイザー・ボード

原 純輔

2002 年 4 月－現在 (財) 日本性教育協会理事
2003 年 11 月－現在 社会調査士資格認定機構理事
2004 年 4 月－2008 年 3 月 松下国際財団研究助成選考委員
2006 年 8 月－現在 日本学術会議連携会員

佐藤嘉倫

1996 年 6 月－現在 東北地方ダム管理フォローアップ委員会委員
1999 年 9 月－2005 年 8 月 名取市環境審議会委員
2002 年 8 月－2004 年 3 月 宮城県循環型社会推進懇話会委員
2003 年 8 月 1 日－2005 年 7 月 31 日 日本学術振興会 特別研究員等
審査会専門委員
2005 年 1 月 31 日－2006 年 12 月 31 日 日本学術振興会 科学研究費
委員会専門委員
2005 年 1 月 25 日 科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金
審査部会人文・社会系委員会特別推進研究審査意見書作成者
2006 年 8 月 20 日－現在 日本学術会議連携会員

- 2008年1月16日 科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金
審査部会人文・社会系委員会特別推進研究審査意見書作成者
- 2008年6月9日 科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金
審査部会研究課題提案型委員会「新学術領域研究（研究課題提案型）」
書面レフェリー
- 2008年8月1日－2010年3月31日 先端科学（FoS）シンポジウム事
業委員会専門委員

（2）公開講座等の講師

海野道郎

- 2006年11月11日（土） 関西学院大学 21世紀COE特別研究「調査」
於：KG大阪梅田キャンパス（梅田アプローズタワー14階）招待講義
「公共財としての社会調査－公共財についての調査経験を通して」
- 2007年2月21日 エコ&エネルギー・ワークショップ講演「環境配慮
行動の困難を越えて－環境問題と社会的ジレンマ」（東北電力仙台営
業所）

佐藤嘉倫

- 2005年7月20日 東北大学100周年記念 第1回サテライトセミナー
（名古屋）講師 「日本社会の流動性と価値観のゆらぎ」
- 2006年2月10日 第5回東北大学100周年記念セミナー「生き方、老
い方、死に方を科学する」講師「安心して冒険できる社会へ－新しい
日本型雇用制度の可能性」
- 2007年1月13日 第7回東北大学100周年記念セミナー「きれいな子、
無気力な子、挫折する子－親の力、教師の力、社会の力を考える」講
師「将来が見えない若者たち－家庭・教育・労働市場の再構築」
- 2007年8月25日 東北大学100周年記念まつり「東北大名物教授のポ
ケットセミナー」講師「将来が見えない若者たち－家庭・教育・労働
市場の再構築」
- 2007年10月22日 慶応義塾大学21世紀COEプログラム多文化市民
意識研究センター講演会講師「地球市民意識と不平等」
- 2007年12月1日 大東文化大学経済研究所第27回経済シンポジウム
「格差社会の現実と展望－豊かな社会の実現に向けて」講師「格差社

会論と社会階層論—格差社会論からの挑戦に込めて—

2008年5月11日 財団法人メンタルケア協会 第107回メンタルケア・スペシャリスト養成講座（仙台会場）講師「将来の见えない若者たち—家庭・教育・労働市場の再構築—」

2009年5月3日 財団法人メンタルケア協会 第107回メンタルケア・スペシャリスト養成講座（仙台会場）講師「将来の见えない若者たち—家庭・教育・労働市場の再構築」

2009年7月28日 Tohoku University Summer Program 2009 Lecturer “Trust and Inequality: An Agent-based Model of Effect of Market Attractiveness on Trusting Behavior.”

2009年8月2日 東北大学関東交流会 講師 「人間関係は犯罪を防げるか？ 東京を事例として」

木村邦博

2005年8月11日 宮城県高等学校社会科教育研究会第32回ワークショップ 共同講演（玉造荘）「高校生の眼に映る『学歴社会』—宮城県での継続調査から」

2008年7月30日 第47回東北地区私学教育研修会・生徒指導部会 講演（仙台ガーデンパレス）「高校生の規範意識の現状をどうとらえるか—『教育と社会に対する高校生の意識』第6次調査から—」

2008年6月4日 平成21年度仙塩地区高等学校長会講話（KKRホテル仙台）、「仙台圏の高校生の20年」

2009年8月10日 宮城県高等学校社会科教育研究会第33回ワークショップ 共同講演（ゆと森 倶楽部 蔵王ハイツ）「仙台圏の高校生の20年、そして現在」

（3）NPO・NGO法人・民間企業との協力関係等

海野道郎

2004年度—現在 財団法人損保ジャパン環境財団「損保ジャパンCSOラーニング制度」仙台地区助言者

2007年度 宮城県生活協同組合連合会「レジ袋有料化条例草案作成WG」アドバイザー

木村邦博

2009年4月－現在 東北工業大学高等学校評価委員（委員長）
2009年9月－現在 一般社団法人社会調査協会 機関誌『社会と調査』
専門査読委員

本郷正武

2003年2月－現在 東北 HIV コミュニケーションズ 事務局次長

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2005年度～2009年度）

海野道郎

2005年4月－2007年3月 東北社会学研究会 機関誌『社会学研究』
編集委員

2005年8月－2007年7月 東北社会学会 会長

2005年8月－2007年8月 廃棄物学会東北支部 副支部長

2006年11月－2009年11月 日本社会学会 財務理事

原 純輔

2003年7月－2005年7月 東北社会学会会長

佐藤嘉倫

2002年7月－2006年7月 国際社会学会合理的選択部会理事

2003年11月－現在 日本社会学会国際交流委員

2005年4月－2007年3月 数理社会学会会長

2005年10月－現在 日本社会学会将来計画特別委員

2006年7月－現在 国際社会学会理事

2006年7月－現在 国際社会学会合理的選択部会長

2007年 アメリカ社会学会数理社会学部会 論文賞選考委員

2007年 International Conference on Rational Choice and Social
Institutions 大学院生論文賞選考委員長

2007年9月－2009年3月 数理社会学会第7回論文賞選考委員会委
員

2008年4月1日－2009年3月31日 2008年度数理社会学会役
員等選挙の選挙管理委員（委員長）

2008年7月14日－現在 日本社会学会世界社会学会議組織委員

2008年 アメリカ社会学会数理社会学部会 大学院生論文賞選
考委員

2008年 RC45, The First ISA Forum of Sociology 大学院生論文
賞選考委員長

木村邦博

2005年4月－2007年3月 数理社会学会監事

2006年4月－2009年3月 日本行動計量学会理事

2007年10月－現在 日本教育社会学会編集委員

2009年4月－現在 日本行動計量学会欧文機関誌編集委員

2009年7月－現在 東北社会学会理事

浜田宏

2004年4月－2006年3月 数理社会学会編集委員（『理論と方法』編
集委員）

2007年9月－2009年3月 数理社会学会第7回論文賞選考委員会委員

2009年4月－現在 数理社会学会理事

本郷正武

2007年7月－2009年7月 東北社会学会理事

2009年7月－現在 東北社会学会編集委員

Ⅶ 教員の教育活動（2009年度）

（1）学内授業担当

1 大学院授業担当

教授 佐藤嘉倫

行動科学研究演習 「社会学、進化ゲーム理論、エージェント・ベー
スト・モデル」

行動科学研究演習 「エージェント・ベースト・モデルによる社会学
的問題の解明」

行動科学特論（メアリー・ブリントン・ハーバード大学教授と共同開
講） 「Changes in the Transition to Adulthood in Different Societies with
Special Focus on the U.S. and Japan」

課題研究（行動科学）

教授 木村邦博

計量行動科学研究演習 I 「ジェンダーとキャリアの計量分析」

計量行動科学研究演習 II 「社会調査法への認知科学的アプローチ」

計量行動科学研究演習 III 「格差と相対的剥奪の社会心理学」

課題研究（行動科学）

准教授 浜田宏

数理行動科学研究演習 III 「社会現象への数理的アプローチ」

数理行動科学研究演習 IV 「社会現象のモデル化とコンピュータによる計算」

課題研究（行動科学）

2 学部授業担当

教授 佐藤嘉倫

行動科学概論「マイクロ・マクロ問題入門」

行動科学概論「ゲーム理論入門」

行動科学基礎演習 「行動科学の基礎技術」

行動科学基礎実習 「多変量解析実習」

行動科学基礎実習 「社会調査演習」

行動科学演習 「社会学、進化ゲーム理論、エージェント・ベースト・モデル」

行動科学演習 「エージェント・ベースト・モデルによる社会的問題の解明」

行動科学各論（メアリー・ブリントン・ハーバード大学教授と共同開講）「Changes in the Transition to Adulthood in Different Societies with Special Focus on the U.S. and Japan」

教授 木村邦博

行動科学概論「社会調査の基礎」

行動科学概論「社会調査の実際」

行動科学基礎実習 「多変量解析演習」

行動科学基礎演習 「行動科学の基礎技術」

行動科学基礎実習 「社会調査演習」

行動科学演習 「ジェンダーとキャリアの計量分析」

行動科学演習 「階層意識の計量分析」

准教授 浜田宏

行動科学基礎実習 「多変量解析演習」

行動科学基礎演習 「行動科学の基礎技術」
行動科学基礎実習 「社会調査演習」
行動科学基礎演習 「行動科学的研究の基礎：日本人論の検討を通して」
行動科学各論 「階層と不平等のメカニズム」
行動科学演習 「社会現象への数理的アプローチ」
行動科学演習 「社会現象のモデル化とコンピュータによる計算」

助教 本郷正武

行動科学基礎演習 「行動科学の基礎技術」
行動科学基礎演習 「行動科学的研究の基礎：日本人論の検討を通して」

3 共通科目・全学科目授業担当

教授 木村邦博

基礎ゼミ 「日本の家族の事実をとらえる」

(2) 他大学への出講 (2005年度～2009年度)

海野道郎

2007年9月 明治学院大学心理学部非常勤講師「現代社会と心理」

原純輔

2005年4月－現在 放送大学「社会調査」「社会階層と不平等」

佐藤嘉倫

2007年8月 青森公立大学

2008年12月 青森公立大学

木村邦博

2006年4月－2006年8月 東北学院大学「社会学」

2007年4月－2007年8月 東北学院大学「社会学」

2007年9月 学習院大学大学院法学研究科「共同基礎演習 I」

浜田宏

2008年4月－2011年3月 放送大学「幸福の社会理論」(分担講師)

本郷正武

2007年4月－7月 東北薬科大学「現代の社会 III」

- 2008年4月－7月 東北薬科大学「現代の社会 III」
- 2008年4月－7月 尚絅学院大学「社会ネットワーク論」
- 2009年4月－7月 東北薬科大学「現代の社会 III」
- 2009年4月－7月 尚絅学院大学「質的研究」「社会ネットワーク論」
- 2009年8月 岩手県立大学「市民活動論」（集中講義）
- 2009年9月－2010年1月 尚絅学院大学「NPO・ボランティア論」